

3

189

東泉圖書館

類	屬	函	三	架	七	八	九
						冊	號

陸軍士官學校編纂
兵要地誌

大日本之部
磐城岩代

卷之二十九
卷之三十

50908



兵要地誌

大日本之部卷之二十九目錄

磐城國誌

總論

山論

西北境脈

西隅ノ諸山

南境脈

中央脈

水論

灌域ノ區劃

上阿武隈河ノ灌域

地勢總括

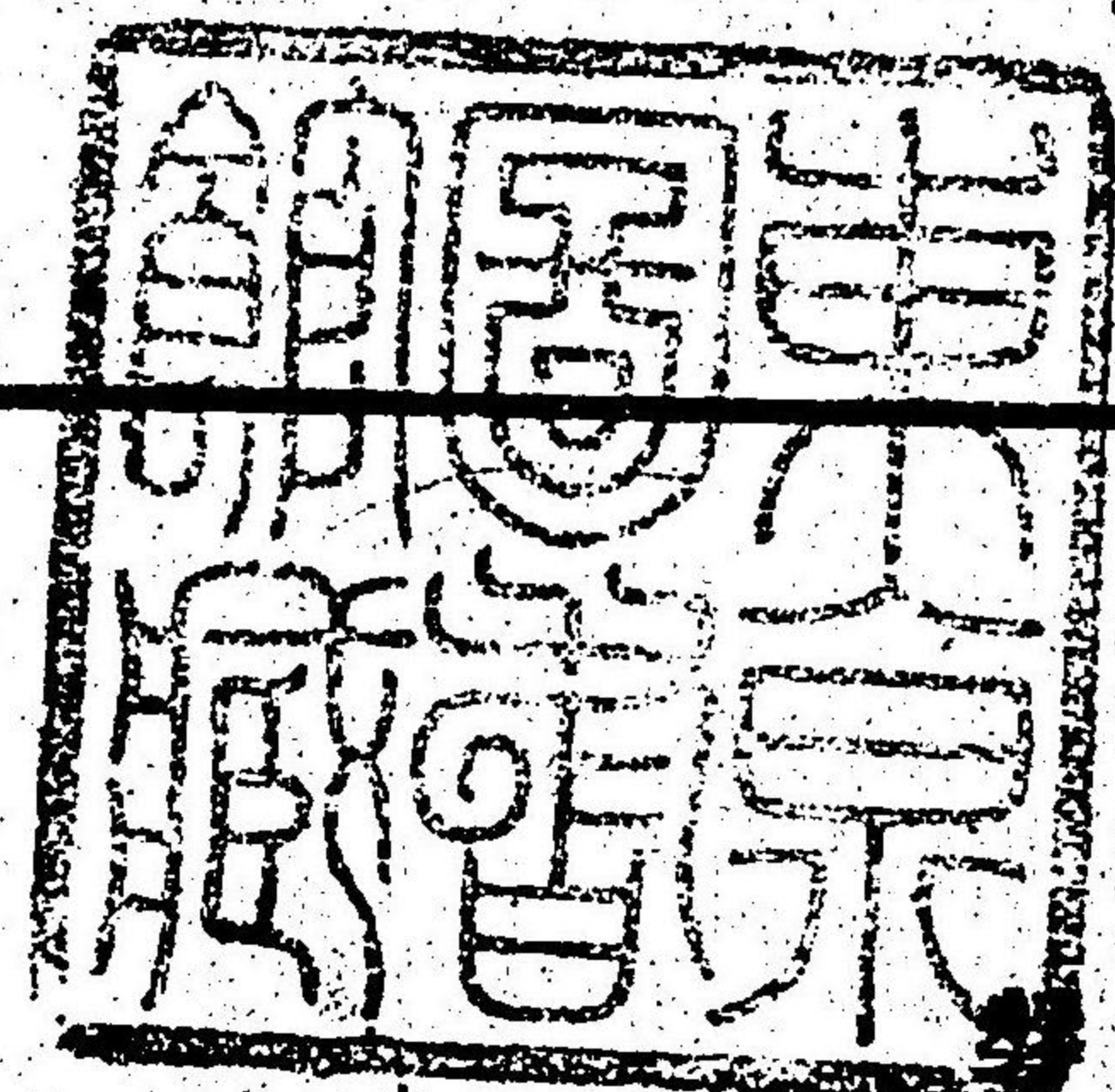
日本部

兵要地誌

磐城國誌

一	二	二	五	六	九	十三	十三
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁

No 9007



兵要地誌 大日本之軍事之二十九目錄



水險

灌域ノ區劃

上阿武隈河ノ灌域

地勢總括

日本海

十三	十三	九	六	五	二	二	一
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



本河ノ水路

十四丁

右朝流

十六丁

左朝流

十九丁

下阿武隈河ノ灌域

地勢總括

二十丁

本河ノ水路

二十丁

右朝流

二十二丁

左朝流

二十二丁

久慈河ノ灌域

地勢總括

二十四丁

本河ノ水路及諸朝流

二十四丁

東流シテ直チニ東洋ニ注ク諸川ノ灌域

地勢總括	二十六丁
諸川ノ水路附海岸ノ形勢	二十六丁
交通路	三十二丁
沿革要史	三十五丁

兵要地誌 大日本之部卷之二十九

陸軍部 木信近 纂述



分ニ達ス、其疆界、北ハ陸前・羽前、西ハ羽前・岩代、南ハ下野・常陸ニ接シ、東ハ一面海ニ枕ス、廣袤・東西約二十二里、狭所五里餘、南北約三十三里、之ヲ劃シテ十四郡トス、西白河郡ハ國ノ西南隅ニ位シ、東白川郡ハ西白河ノ東南ニ

在リ、菊多郡ハ東白川ノ東ニ在リ、石川郡ハ東白川ノ北
 ニシテ西白河ノ東ニ在リ、磐前郡ハ石川ノ東ニシテ菊
 多ノ北ニ在リ、磐城郡ハ磐前ノ東北ニ接ス、地、寧大ニ過
 キス、田村郡ハ石川ノ北ニ在リ、檜葉郡ハ磐前・磐城ノ北
 ニシテ田村ノ北ニ在リ、標葉郡ハ檜葉・田村ノ北ニ在リ、
 行方郡ハ標葉ノ北ニ在リ、宇多郡ハ行方ノ北ニ在リ、以
 上十一郡ハ福島縣ニ屬ス、亘理郡ハ宇多ノ北ニ在リ、伊
 具郡ハ宇多ノ北ニシテ亘理ノ西ニ在リ、刈田郡ハ伊具
 ノ西ニ在リ、最後ノ三郡ハ宮城縣ニ屬ス、人口四十萬二
 千三百七十六、明治十四年國ノ形狀、南北ニ長ク、西方
 岩代ト犬牙相錯ハリ、中央其凸張ヲ受ケテ殊ニ窄ク、阿
 武隈河ノ巨流之ヲ串流ス、地勢、下野界ノ山脈ヨリ一大

岐脈ヲ分テ、北走シテ國內ニ綿亘ス、又一岐脈ヲ東ニ支
 出シテ常陸ヲ界ス、西隅・陸羽ノ大山ニ接シ、山谷幽邃ナ
 リ、全土隆窪一ナラス、礫礪半ニ居ル、瀕海一帯稍平、遠魚
 鹽ニ富ムト雖、港灣淺少、漕運ニ便ナラス、氣候、極暑九十
 三度、極寒二十一度、沿海ノ地三十八度
 物産ノ主ナル者、礦物ハ鐵、水晶、硯石、白土石、木葉石、櫻
 化石、雲母石、太一禹餘糧、石炭、植物ハ米、大豆、菜種、荏、蒟蒻、
 藍、藥材、烟草、茶、桑苗、漆、椎茸、松茸、海苔、動物ハ馬、鰻、鱒、鮭、
 蜻蛉、鯉、蜂、蜜、孫太郎蟲、蠶種、製造物ハ生糸、白紬、縮緬、綿、紙、
 布、延紙、料紙、犬糞油、鐵器、陶器、漆器、蘭筵、菅笠、炭、製造食物
 ハ鹽、寒鹽、粉、乾鰯、鯉、節、乾柿、乾栗等ナリ

山論

山脈ノ大勢陸羽ノ大山脈南下シテ暫ラク本州ノ西北
 境羽前ヲ劃シ、次テ岩代ニ入り、再ヒ本州ノ西隅ニ來テ
 大ニ翻起ス、之ヨリ支出スル者ハ、東走シテ南境ヲ劃シ
 海ニ至テ盡ク、此岐脈更ニ長岐脈ヲ北發ス、此岐脈ハ、蜿
 蜒北上シテ、初國ノ南部ヲ兩斷シ、次テ岩代ノ境界ヲ劃
 シ、後、終ニ折レテ東ニ向ヒ海岸ニ至リ盡ク、故ニ本州ノ
 山脈ヲ大別シテ三脈トス、即チ西北境脈、西隅ノ諸山、南境
 脈、中央脈是ナリ

西北境脈

西北境ノ山脈ハ、陸前・羽前・本州三國ノ交界點ニ起リ、西
 南ニ向ッテ七八里間蜿蜒シ、以テ羽前ヲ界ス、其交界點
 ニ一大山アリ、之ヲ熊嶽ト名ク、其東南ニ一大山彙アリ

熊嶽

藏王嶽

相連ル、之ヲ刈田嶽一ニ不忘山ト云フ、群峯屹立、其絶頂
 ヲ藏王嶽ト云フ、此地方第一ノ高山ナリ、此山往昔ハ火
 ヲ噴キ今尙其洞口ヲ存ス、陸羽ノ大山脈ノ一部ニシテ、
 本土ノ中央大水界線ヲ爲シ、西最上河ノ諸水ト、東阿武
 隈河ノ諸水トヲ分隔ス、脈中ノ高山ヲ、二、森トス、藏王嶽
 ノ南ニ連ル、番城トス、二、森ノ西ニ在リ、此脈ヲ踏フル通
 路二條アリ、左ノ如シ

- 第一 楢下峠金羽山峠ニテハ、白石川ヲ沂リ、其水源
 ナル湯原村羽前郡ヨリ金山村羽前郡ニ通ス、福島岩代
 郡ヨリ山形羽前郡ニ達スル縣道ニシテ、白石本郷羽前
 郡ヨリ山形ニ達スル里道、其途中ニ於テ相會ス
- 第二 仁井宿峠ハ、前者ノ南ニ在リ、湯原村ニ於テ前者

ヨリ岐分シ、仁井宿羽前郡ニ出ツ、米澤羽前郡ニ通スル縣道ナリ

此山脈、數多ノ岐脈ヲ支出シ、國內ニ蟠結ス、就中大ナル者二條アリ

其一ハ、不忘山ヨリ分出シ、陸前ノ國境ヲ劃ス、之ヲ分ツテ二部トス、其第一部ハ、西ヨリ東ニ亘リ、山勢險峻、通路僅二條アルニシテ、左ニ之ヲ揭ク

第一路ハ、不忘山ノ東邊ヲ過キ、青根村陸前郡ニ出ツ、獸徑ニ過キス

第二路ハ、平澤村刈田郡ヨリ、足立村陸前郡ニ出ツ、此路無根藤ヲ通ス、其東ニ四方坂古壘アリ、文治ノ役ニ、泰衡ノ將四方坂ノ壘ヲ守リ、拒戰甚ク、方々、鎌倉ノ兵屢之ヲ

四方坂古壘

攻メ克タス、仍テ兵ヲ無根藤・四方坂ノ間ニ進ムル凡七回、遂ニ之ヲ奪スト、路傍ニ一山アリ、截然高大、四面皆坂道ノ如シ、然リ、後人之ヲ四方坂ト云フ、古壘尙存ス、方一丁餘、是其古戰場ナリ

其第二部ハ折レテ南ニ向ヒ、以テ陸前ヲ界シ、白石川ノ岸邊ニ至リ、壘シ、白石川其凹處ニ於テ本州ヲ去ル、此脈ハ山勢甚低シ、畢竟丘陵ノ絡繹トシテ相連ル者ニ過キス、故ニ到處通路アリ、之ヲ以テ境トスル諸村互ニ相通セサルナク、一々屈指ニ追マアラサス、左ニ其最ナル者二條ヲ掲ク

第一 鹽澤路ハ、鹽澤村刈田郡ヨリ、村田村陸前郡ニ出ツ、里道ナリ

第二 陸前街道ハ宮縣郡刈田ヨリ金瀬驛田前縣柴ニ至ル、
 道路丘陵ノ盛ナル處ヲ通シ白石川ニ沿フ、福島ヨリ
 仙臺ニ通スル本道ニシテ、國道線第六ナリ
 其二ハ本州・羽前・岩代三國ノ交界點ナル十郎峠山ヨリ
 分出シ、東ニ向ヒ嵯峨岩代ノ國境ヲ劃シ、阿武隈河畔ニ
 至リ、更ニ隆起ス、之ヲ東高丸山トス、是ニ於テ折レテ北
 ニ向ヒ刈田・伊具ノ郡界ヲ劃シ、白石川ノ岸邊ニ迫マリ、
 不忘山ヨリ支出スル岐脈ノ尾端ト相對シ、以テ白石川
 ノ上谷ヲ包ミ、其間ニ一狹隘ヲ開キ、白石川ヲシテ其狹
 隘ヨリ流出セシメ、而シテ其餘派ハ更ニ東北ニ向ツテ
 白石川ノ流ニ沿ヒ、延伸シテ陸前ノ國境ヲ劃シ、終ニ阿
 武隈・白石二水ノ深瀬ニ至テ盡ク、此岐脈ヲ踰フル道路

數條アリ、左ニ之ヲ枚舉ス
 第一 新道ハ、峠田村郡刈田ヨリ摺上川ノ上谷、茂庭村代
 郡伊達ニ出ツ、福島代ヨリ山形前ニ通スル街道ニシテ、
 縣道ナリ
 第二 大峠ハ、上戸澤村郡刈田ヨリ小坂村代伊達ニ出ツ、
 白石川ノ上谷ヨリ桑折代岩代ニ通スル捷路ニシテ、里道
 ナリ
 第三 岩代街道ハ、東高丸山ノ西ニ在テ、越河驛郡刈田ヨ
 リ貝田驛ニ出ツ、國道線ナリ
 第四 國內ニ在テ刈田・伊具ノ二郡ヲ相通スル者ハ、皆
 里道ニシテ其數甚多ク、一々屈指スルニ追アラス
 第五 陸前ヲ界スル部ヲ踰フル者數條アリ、是亦皆里

ナラン、戊辰ノ役、會津ノ賊兵、白河ノ官軍ヲ襲ヒ敗レ
火ヲ羽太熊倉、眞舟ノ諸村ニ放テ、此路ヨリ退クト云
フ

第二 飯土用坂ハ、豊地村河白ヨリ隈戸村岩代岩ニ出
ツ、白河ヨリ若松代岩ニ通スル縣道ニシテ、所謂會津ノ

勢至堂口是ナリ、道路崎嶇、行旅ノ困ム所ナリ
國道線ハ、矢吹宿河白ヨリ笠石宿岩代岩ニ通ス、其國境

ヲ横截スル處ハ山脈既ニ盡キテ、陵脈トナリ、重疊起伏
ノ、以テ河邊ニ迫マル

南境脈

南境脈ハ、甲子山ニ連ルト雖、其山脚急ニ陵夷スルヲ以
テ、此山脈ノ西部ハ頗ル低下シ、平坦遼闊ニシテ恰阿武

八溝山

隈河ノ上谷ト、那珂河ノ朝流、黒川ノ上谷ト共ニ同一ノ
凹谷ヲ爲セル者ノ如ク、脈脊判然セズ、僅ニ雨水ノ分流
ヲ見テ水界線ヲ徴スヘキノミ、然レ其二河ノ南北ニ相
背馳スルヲ以テ之ヲ觀レハ地勢自カラ高キヲ知ルヘ
キナリ、國道線ノ東ヨリ漸ク隆起シテ大山脈ヲ爲シ、蜿蜒
シテ下野常陸ノ國境ヲ劃シ、終ニ海ニ入り、鷹取岬ニ
盡ク、脈中ノ高山ヲ八溝山トス、本州下野常陸三國ノ交
界點ニ秀拔ス、此山脈ヲ越フル通路甚多シ、左ニ之ヲ枚
舉ス

第一 黒川道ハ、脈中ノ凹處ヲ通シ、小田倉村河白ヨリ
夕狩村須野郡ニ出ツ、戊辰ノ役ニ、官軍兵ヲ分ツテ三
道ヨリ白河城ヲ攻ムト、其一ナリ、下野ニテハ之ヲ原

街道ト云フ

第二 新道ハ、白河驛河四郡白ヨリ豊原驛下野郡那ニ通ス、山ヲ穿テ、谷ヲ埋メ、車馬ノ馳驅自在ナリ、今鐵道ヲ通ス

第三 白坂口ハ、白坂驛河四郡白ヨリ蘆野驛下野郡那ニ通ス、國道線第六ナリ、慶長ノ役ニ、上杉氏ノ將直江兼續、徳川氏ノ軍ヲ誘フテ革籠原ニ引入レンカ爲メニ、白川街道箕澤口ノ左鞆右鞆ノ山ヲ斫崩シテ、街道往還ノ路ヲ塞キ、其西二里塚ノ明神白坂ノ道ヲ作ルト即是ナリ、戊辰ノ役、官軍兵ヲ分ツテ三道ヨリ白河城ヲ攻ムト其一ナリ

第四 箕澤口ハ、旗宿村河四郡白ヨリ箕澤村下野郡那ニ出ツ、白河古道ト稱ス、山路狹隘、左鞆右鞆ノ險アリ、慶長ノ

白川關址

役ニ、直江兼續此險ヲ塞キ、徳川氏ノ軍ヲ白坂口ニ要スト云フ、旗宿村往古ハ關村ト云ヒ、關ヲ置ク、文治五年、源頼朝白川關ヲ越フト是ナリ、後世碑ヲ建テ關址ヲ標ス

第五 那須道峠ハ、戸中村河四郡白ヨリ梓村下野郡那ニ出ツ

第六 太郎坂ハ、戸中村上ヨリ棚鹽村下野郡那ニ出ツ

第七 八津山越ハ、大梅村河四郡白ヨリ南防村下野郡那ニ出ツ、以上三道ハ、棚倉ヨリ下野ニ達スル捷路ニシテ、道路一條ノ獸徑ニ過キス

第八 眞木野路ハ、久慈河ノ右岸ニ沿ヒ、關岡村河四郡白ヨリ下野宮村河四郡白ニ出ツ、里道ナリ、途上矢祭ノ八景アリ、峻巖河ニ臨ミ、頗ル景致アリ

第九 境峠ハ、大拱村東白郡ヨリ徳田村常陸郡ニ出ツ、棚倉ヲ經テ水戸ニ達スル縣道ニシテ、棚倉街道ト云フ、第十 那倉越ハ、川上川ノ上谷・那倉村東白郡ヨリ山小川村常陸郡ニ出ツ、樵路ニ過キス

第十一 勿來關ハ、山脈ノ尾端・勿來山ヲ踰フ、山上ニ關趾アリ、源義家ノ舊蹟ナリ、今ハ廢路ニ屬ス

第十二 祈通路ハ、九面村常陸郡ヨリ關本村常陸郡ニ出ツ、之ヲ新關ト云フ、承應元年、土民官ニ請フテ山ヲ祈リ、初テ坦道ヲ開キ、行旅ニ便ス、所謂濱街道十國五道是レナリ

第十三 隧道ハ、前者ノ東ニ在リ、山下ヲ穿テ九面港上ヨリ平瀧港常陸郡ニ通ス

勿來關址

此山脈亦數多ノ岐脈ヲ北發シ、國內ニ參差ス、其最者ハ久慈河ノ上谷東白郡ノ諸水ト醒川常陸郡ノ諸水トヲ分隔シ、委迤北上シテ中央脈ニ連ナリ、其間更ニ山脈ヲ分テ凸凹起伏ス、荷路夫山・小林山・三椏山等ハ、其最者ニシテ山深ク人跡到ル甚稀ナリ

中央脈

中央脈ハ、國內ノ水界線ヲ爲ス者ニシテ、南境脈ノ龍土山ヨリ岐出シ、初暫ク西白河・東白川ノ郡界ヲ劃シ、忽テニシテ陵夷シ、凹口ヲ開キ、棚倉其門闕ヲ占ム、次テ又更ニ隆起シ、常陸境ヨリ支山スル岐脈ニ連リ、以テ久慈河ノ上谷ヲ纏包ス、抑久慈河ノ上谷ハ、天然ノ地理ニ就テ輪スレハ、常陸ニ屬セシムルヲ當然トス、然ルニ之ヲ

本州ニ編入スル者ハ、右ニ云フ如ク水界線回處ヲ開キ、
 自餘ノ周脈ヨリモ峻險ナラサルヲ以テナリ、次テ蜿蜒
 北上シ、以テ西流シテ阿武隈河ニ會スル諸水ト、東流シ
 テ直ニ海ニ注ク諸水トナ分界シ、其北部ハ標葉・行方・宇
 多・伊具ノ四郡ト、岩代トノ境界ヲ畫ス、脈中ノ名山ヲ、大
 瀧根山トス、栢葉・田村ノ郡界ニ聳出ス、靈山トス、宇多郡
 ニシテ岩代境ニ秀拔ス、山上ニ北畠顯家ノ城址アリ、巖
 巖數十丈著名ノ窟蹟ナリ、此山脈ヲ除フル道路數條アリ、
 就中其南部ニ在テ、内地山脈ノ東西彼此相通スル者
 ナ先ヲ揭ク、其一ハ釜子カマゴ河カマゴヨリ柳倉町ニ通ス、所謂柳倉
 街道ニシテ縣道ナリ、其二淺川村アサカヨリ柳倉町ニ通
 ス、里道ナリ、其三石川村イシガハヨリ竹貫村タケツ川カハ東アニ通ス、里

天龍山

天龍山

道ナリ、其四瀧子村タケノコ石川ヨリ上三坂村カミミ前マニ通ス、守山
 ヨリ平ヒラニ達スル縣道ナリ、其五柳橋村ヤナギハシ田村ヨリ小野新
 町コノノ村ノ同ノニ通ス、三春ヨリ平ヒラニ達スル縣道ナリ、其六常葉
 村トコノ田村ヨリ古道村フジノ同ノニ通ス、里道ナリ
 中央脈、田村・標葉・安達ア三郡ノ交野點ナル天王山ヨリ
 一岐脈ヲ西發ス、此岐脈西走シ阿武隈河畔ニ至テ盡キ、
 以テ岩代ノ境ヲ劃ス、此岐脈及中央脈ノ北部ヲ踰ヘテ
 岩代ニ通スル通路數條アリ、左ニ之ヲ枚舉ス
 第一 本宮街道ハ、土棚村ツツ田村ヨリ棟澤村トナ岩代安アニ出
 ツ、三春ヨリ本宮代ホンミヤニ通スル縣道ナリ、函ノヨリ福島ニ
 至ル直路トス
 第二 小濱路ハ、七草木村シチクサキ田村ヨリ稻澤村イナ岩代安アニ出

第三 三春ヨリ二本松ニ至ル別路ニシテ里道ナリ
 第三 百目木路ハ、上移村田村ヨリ百目木村岩代安ニ
 出ツ、里道ナリ
 第四 山木屋路ハ、津島村岩代安ヨリ山木屋村岩代安ニ
 出ツ、標葉郡ヨリ、福島ニ達スル直路ニシテ里道ナリ
 第五 川俣路ハ、二枚橋村岩代安方ヨリ川俣町岩代伊ニ出
 ツ、里道ナリ
 第六 石田路ハ、靈山ノ南ヲ通ス、玉野村岩代伊ヨリ石田
 村岩代伊ニ出ツ、里道ナリ
 第七 中村街道ハ、玉野村岩代伊ヨリ靈山ヲ除ヘ、大石村岩代伊
岩代伊ニ出ツ、中村ヨリ福島ニ通スル縣道ナリ
 第八 茂倉峠ハ、丸森町岩代伊ヨリ梁川町岩代伊ニ通ス

中央脈亦數多ノ岐脈ヲ東西ニ分出ス、今其最者ヲ南方
 ヲリ逐次ニ揭示ス、其一ハ柴山ヨリ支出シテ東南ニ向
 ヒ、東白川及菊多ト、磐前トノ郡界ヲ劃シ、更ニ派レ、一ハ
 菊多郡ニ入テ蟠結シ、一ハ磐前ニ入テ更ニ隆起ス、之ヲ
 湯嶽一ニ三箱山ト稱スル古蹟ナリ、脈中多ク石灰ヲ出
 ス、其山脚漸ク低レ國道線ヲ横截シテ起伏參差シ、海岸
 ニ至テ數多ノ岬角ヲ爲ス、就中宿岬ノ脚根ハ、海底ニ接
 續シテ延長里餘ニ及フ、之ヲ鹽屋暗礁ト云フ、其二ハ夏
 井川ノ朝流、好間川ヲ夾ミ、前者ニ平行シテ一凹谷ヲ開
 キ道路ヲ通ス、其尾端ニ秀拔スル者ヲ關ヶ井嶽ト名ツ
 ク、湯嶽ニ對峙ス、烽火アリ夜々山上ニ向ツテ點飛ス、脈
 中多ク鐵屬ヲ産ス、其三ハ蓬田山ノ脈絡ニシテ西ニ支

湯嶽
 關ヶ井嶽
 關ヶ井嶽

乙字瀬

出シ、岐シテ二條ト爲リ、一ハ西南ニ斜伸シ、蝦夷嶽・寶頭
留山ニ連ナル、其山脚龍崎村ニ至リ、阿武隈河ヲ遮キリ、
河中ニ一大瀑布ヲ爲ス、所謂乙字瀧是ナリ、一ハ蜿蜒西
走シテ雲水峯ニ連ナリ、石川・田村ノ郡界ヲ畫シ、阿武隈
河ニ達セサル前ニ盡キ、山脚ト河トノ間ニ曠漠タル原
野ヲ存ス、之ヲ御代田原ト云フ、其雲水峯ハ、正平年間ニ、
北畠顯信・宇津峯ノ宮ヲ奉シ、兵ヲ起セシ著名ノ舊蹟ニ
シテ、城址アリ空・塹壘壁今尙存ス、其四ハ夏井川ノ水源
ト、大瀧根川ノ水源トノ間ニ於テ岐分シ、西ニ向ツテ黒
石・鉄懸等ノ諸山ニ連ナル、其餘派岡陵ト爲リ、田村郡ノ
西部ニ至リ各處ニ星散基峙ス、其五ハ大瀧根山ヨリ支
出シ、初、南走シテ田村・檜葉ノ郡界ヲ畫シ、矢、大臣山ニ連

雲水峯古
城址

太夫坂

リ、次テ東南ニ向ヒ神樂山ニ連リ、尙同方向ヲ遷フテ檜
葉・磐城ノ郡界ヲ畫シ、猫鳴山・三森山等ノ高山ヲ領シ、遂
遷漸ク低レ、海濱ニ至テ國道線ヲ遮キル、之ヲ太夫坂ト
云フ、峭壁海ニ沿ヘ、風波岸ヲ拍テ、行旅殆ント通セス、近
頃山間ヲ開鑿シテ新道ヲ修セリ、旅客之ヲ便トス、其六
ハ檜山ヨリ支出シ、初、東走シテ檜葉・田村ノ郡界ヲ畫
シ、大瀧取山ニ連リテ三岐ヲ派ツ、一ハ南走シテ檜葉郡
ニ入ル、小瀧取山・大明神森ノ脈是ナリ、一ハ東馳シテ檜
葉・標葉ノ郡界ヲ劃ス、脈中ノ高山ヲ大山ト稱ス、一ハ北
上シテ閻魔・鼻・鶴切等ノ諸山ヲ領シ、檜葉・田村ノ郡界ヲ
畫シ、伊手川ヲ隔テ、手倉山ト相望ル、其七ハ鎌倉山ヨ
リ支出シ、西ニ向ツテ田村郡ニ入り起伏ス、脈中ノ名山

ナ移嶽トス、兀然秀拔シ、霜葉雪花時ニ人目ヲ悦ハス、故
 ニ一ニ美山ノ稱アリ、其餘派西南ニ亘リ文珠山ニ連ナ
 ル、其八ハ天王山ヨリ東ニ支出シ、少シク彎曲シテ東南
 ニ繞リ、龍子五十人ノ諸山ヲ領シ、標葉・田村ノ郡界ヲ畫
 ス、其尾端ハ伊手川ヲ夾ンテ鶴切山ト相對ス、天王山・別
 ニ又一脈ヲ東發シ、標葉郡ニ入テ蟠結ス、之ヲ總稱シテ
 津島山ト云フ、其九ハ東公大石山ヨリ東ニ支出シ、蜿蜒
 彎曲シテ標葉・行方ノ郡界ヲ畫シ、更ニ小岐脈ヲ北發シ、
 國見山・二・森等ノ諸山ニ連ル、其十ハ虎捕山一名山神山
 ヨリ東ニ支出シ、東走シテ行方・宇多ノ郡界ヲ畫シ、迤邐
 漸ク低レ八澤浦ニ至テ止ム、其十一ハ靈山ノ北ニ於テ
 東山ニ、最初東ニ綿亘シテ國見山・天明山ニ連ナリ、次テ

折レテ矩形ヲ爲シ、海岸ニ平行シテ眞直ニ北走シ、宇多・
 伊具及亘理・伊具ノ郡界ヲ畫シ、阿武隈河ノ曲處ニ至テ
 盡キ、山脈ト海濱トノ間ニ狹長ナル一帯地ヲ存ス、宇多
 郡ノ北部及亘理郡ノ地是ナリ、脈中ノ名山ハ鹿嶺山・五
 社檀・地藏森等トス、五社檀ハ一ニ東光山ト稱シ、峻高ニ
 シテ群山ヲ壓ス、此脈ヲ除ヘテ海濱ノ地、即宇多郡ノ北
 部、及亘理郡ヨリ内地、即伊具郡ニ往來スル通路數條アリ、
 旗卷峠・伊手峠・小齋峠・夜打峠、其最モ著ハル、者ナリ、
 又鹿嶺山ヨリ一脈ノ岐分スルモノアリ、漸ク東ニ低レ、
 濱街道國道ヲ遮キル、之ヲ駒嶺ト名ツク

永論

濠域ノ區劃

山河自然ノ形勢ニ從ヒ、境内ヲ分ツテ四灌域トス、上阿武隈河ノ灌域、下阿武隈河ノ灌域、久慈河ノ灌域、及東流シテ直ニ東洋ニ注ク諸川ノ灌域是ナリ

上阿武隈河ノ灌域

地勢總括

上阿武隈河ノ灌域ハ、西白河・石川ノ二郡及田村郡ノ過半ヲ領シ、地形・岩代ノ尖角ヲ受ケテ巒折シ、其西隔ハ重嶺屏列シ、南ヨリ東ハ此灌域ヲ限レル山脈ヲ擁シ、北方一面空濶ナリ、地勢概高燥ニシテ肥瘠相錯ハリ、沿河ノ地一帯田圃稍開ケ村落密布シ、餘ハ皆山地ニ屬シ、峯巒起伏、平野水田稀少ナリ、然レモ牧馬養蠶及烟草ノ利饒ナリ

本河ノ水路

阿武隈河ハ、一ニ逢隈河ニ作ル、源ヲ甲子山中旭嶽ニ發シ、最初深山幽谷ヲ東流シテ、數多ノ飛瀑溪水ヲ集メ、水勢漸ク増大シ、白河千一約九ニ至テ國道東京ヨリ函横截ス、橋アリ大橋長三十四ト云フ木橋ナリ、此地國道ノ要阨ニ當リ、本州東境ノ鎖鑰ト稱ス、支線四通、西北ハ若松代ニ達シ、東南ハ常陸ニ通ス、阿部氏ノ舊城市ニシテ、烟戶稠密、治安裁判所・電信分局・警察署・郡役所河那・鐵道停車場アリ、市街ノ南ニ大沼アリ南湖ト稱ス、遊憩ノ勝地タリ、今公園トス、其東ニ搦山アリ即結城氏ノ古墟ニシテ、峨々タル石壁中ニ感忠銘ヲ彫刻セリ、北ハ逢隈河ニ臨ミ、南ハ連山ノ間ニ沼アリ、皆古昔ノ隍迹ナリ、鎌

百

阿武隈河ノ古

倉府ノ始、願朝此地ヲ以テ結城朝光ニ與ヒ、其子孫下野ノ結城ニ在テ遙カニ領ス、遠孫祐廣ニ至リ白川ヲ氏トシ始メテ本城ニ主トス、其子宗廣道忠ト後醍醐帝ノ詔ヲ奉シ、奥羽二州ノ兵ヲ總ヘ、上方ニ攻上リ一族盡ク義ニ殉フ、其子親朝留守シテ假ニ國司ノ事ヲ行ヒ、城ヲ今ノ小峯ニ移ス、城池丘陵ニ據リ河ヲ帶フ頗ル堅牢ナリ、親朝初南朝ニ奉仕セシカ、近國足利氏ニ屬スル者漸ク多ク勢支ヘ難ク、遂ニ反シテ足利氏ニ應シ、子孫世々本城ニ治ス、政朝ノ時、文明十七年、伊達植宗・岩城重隆ト戰フ、植宗兵ヲ此地ニ移シ、城下ノ家屋堂塔ヲ燒テ退ク、戰國ノ時ニ至リ、晴綱・義親本城ニ據テ、佐竹・那須・石川等近國ノ諸氏ト屢戰フ、天正十八年、秀吉東征既ニ小田原ヲ

小峯城址

降シ、進ンテ宇津宮ニ至ル、義親遠驚出テ之ヲ國境ニ迎ヒ、通參ノ罪ヲ謝ス、秀吉聽サス其城邑ヲ沒收シ、之ヲ關一政ニ與ヘ、蒲生氏ニ隸屬セシム、上杉景勝會津ニ移ルニ及ンテ、妹川越前一書五百川平林藏人一書平林内ルヲ本城ニ置キ、慶長ノ役ニ、徳川氏ノ軍ヲ壓ス、慶長六年、蒲生氏再會津ニ封セラレ、其臣町野吉氏ヲ置ク、其後代封セララル、者數氏アリ、文政ノ初、阿部正權ニ賜ヒ、慶應中、阿部正功ヲ柳倉ニ轉封シ、二本松藩ニ命シテ城ヲ守ラシム、戊辰ノ役、夏四月十九日、會津ノ賊兵猝ニ來リ襲ヒ、火ヲ城下ニ放テ三面攻撃シ、濠ヲ踏ヘテ城ニ乘ス、守兵支ヘス後門ヨリ走ル、賊兵乃チ城ニ入り糧杖ヲ奪テ之ニ據ル、五月朔日、官軍兵ヲ分ケ三道本道、黒川、柳倉ヨリ城

戊辰ノ役ノ戦地

假寐ノ森
田島古城
址

ヲ攻メ、遂ニ之ヲ復ス、本城ハ奥羽ノ咽喉ナリ、攻守共ニ
 據ルヘシ、故ニ兩軍之ヲ争フ最劇シク、城市盡ク灰燼ト
 ナル、白河ヲ過シ、後、尙東流シテ、縣道ニ白川ヨリ分岐
 沿ヒ、左岸ニ假寐ノ森ヲ存ス、有名ノ古蹟ナリ、次テ田島
 村ヲ過ク、古城址アリ、村ノ東南八丁餘ニ在リ、其地高十
 二丈許、頂平ニシテ東西ニ長シ、城隍ノ遺跡尙存シテ周
 圍ヲ回ル、故ニ回窪ト字ス、永祿ノ初、田島信濃守景久、本
 城ニ在リ、結城ノ支庶・義親、其正統・義顯ヲ滅シ、白川ヲ奪
 ハントシ、之ヲ景久ニ命ス、景久陽ニ諾シ、密カニ之ヲ義
 顯ニ告ケ、會津ニ走ラス、義親怒リ兵ヲ發シテ、景久ヲ討
 ツ、景久城ヲ燒テ自盡ス、是ヨリ廢城トナル、次テ河原田
 村ニ至リ、縣道ヲ吹木點ニ達スル、分岐ニ經テ、横截ス、橋ア

河原田村

釜ノ子村

リ石田橋幅一十七間ト云フ、木橋ナリ、右岸ノ釜ノ子村、約一
 百一ニ通ス、釜ノ子村ハ、棚倉ニ達スルニ二縣道相會スル地
 ニ在ルヲ以テ、稍繁昌ナリ、次テ吉岡村ニ至リ、方向ヲ東
 北ニ轉ス、此地ニ橋アリ、山下橋、幅三十一間ト云フ、圮橋ナ
 リ、是ヨリ下流ハ、西白河、石川ノ郡界ヲ畫シ、新屋敷村ニ
 至リ、杜川、右朝ヲ容レテ北ニ向ヒ、三城目村ヲ過ク、舟渡
 河、幅五丁餘ニ、鷹巢館・乳母館・應神館三
 十間許アリ、村ノ西南六丁餘ニ、鷹巢館・乳母館・應神館三
 郭ノ古址アリ、是三城目ト名ツル所以ナリ、神龜ノ比、
 和州ヨリ大學ナル者來テ、館主トナリ、世襲ス、後、永祿年
 間ニ、中畑上野介晴辰ノ奪フ所ト爲リ、城廢ル、所々ニ空
 隍ノ遺形、尙殘レルアリ、次テ西白河ノ郡界ヲ去テ、岩
 代ノ國境ヲ劃シ、龍崎村ニ至リ、嶺ノ爲ニ支フレテ、回

三城目村

龍崎村

折シ一大段落ヲ爲ス、之ヲ石川瀧ト名ツク、巨巖横ニ連
ナリ乙字狀ヲ成シ、河流斗絶シテ下ル、故ニ乙字瀧ノ稱
アリ、次テ安達郡代岩ニ至テ全ク岩代ニ入ルル岩代ニ屬ス
武隈河ノ詳配ストシ

右朝流

第一 堀川ハ、源ヲ小田倉村ノ山中、字一ノ股山ニ發シ、
本河ニ平行シテ東流シ、西原ト名ツクル曠野ヲ過シ、慶
長五年、上杉景勝兵ヲ起シ、其將直江兼續・大桶二千許ヲ
西原ニ理メ、阿武隈河ノ水ヲ引テ之ニ湛ヘ、以テ大河ニ
臨ムカ如クスト即是ナリ、次テ二派ニ分レ、一ハ北流シ
テ直ニ本河ニ入り、一ハ東流シテ谷津田川ト爲リ、白河
市中ヲ過キ、棚山ノ故墟ノ下ニ至テ本河ニ入ル、水路約

西原

谷津田川

二里二十丁、白河市中、毎戸此水ヲ引キ飲用ニ供スト云

皮籠原

第二 杜川ハ、上流ヲ藤川ト稱シ、源ヲ西倉山ニ發シ、東
流シテ皮籠原ヲ過シ、慶長ノ役ニ、上杉景勝・徳川父子ノ
軍ヲ皮籠原ニ誘フト即是ナリ、次テ下野境ノ山脈ヨリ、
發スル、數多ノ溪水ヲ合ス、其一水、旗宿村ノ南ヨリ出ッ
ル者ヲ白川ト名ツク、箕澤口ノ通路ヲ開ク、古、此道ヲ以
テ本道ト爲セリ、山中ニ關趾アリ、文治五年、源頼朝・白河
關ヲ越フト是ナリ、次テ東白川郡ノ西北ニ挺出スル凸
角ヲ申流シ、一小派ヲ分ツ、此派流ハ矢洗川ト名ツケ、南
流シ、柳倉ニ至テ久慈河ノ朝流・大草川ニ合ス、次テ石川
郡ニ入り、淺川村ヲ過シ、古城アリ、天正三年、田村清顯・四

白河關

矢洗川

淺川村

北洲川

石川驛

石川古城

向ヒ、中央脈ヨリ發スル諸水ヲ集メ、石川驛ノ西ニ至テ石川川ヲ受ク、石川川ハ上流ヲ北洲川ト云ヒ、源ヲ蓬田山ニ發シ、西南ニ向ツテ屈曲滌洞シ、數多ノ溪水ヲ集ム、就中大者ヲ今出川一ニ雙里川トス、東白川郡ノ東北隅ナル山中ヨリ來リ、石川驛ニ至テ相會ス、石川驛一ノ口約ハ、局地ノ小中心ニシテ市場ヲリ、郡役所石川アリ、驛西ノ館趾アリ、古石川城ト云フ、戰國ノ時、石川氏之ニ據リ、天正ノ末、伊達政宗ニ降ル、石川川水路約六里二十七丁ニシテ杜川ニ會シ、杜川ハ水路約九里二十二丁ニシテ本河ニ入ル

第三 谷田川ハ、源ヲ田母神山中ニ發シ、田村郡ノ南境

守山村

守山古城

下枝古城

常葉村

ヲ流レ、西ニ向ツテ一狹谷ヲ開キ、夏井川ノ上谷・小野・新町ニ往來スル里道ヲ通ス、其下流曠野ニ出テ、北ニ折レ、守山村ヲ過シ、松平氏水戸ノ舊邑ヲリ、人家稍稠密ナリト雖、富庶ニ至ラス、古城アリ、永祿八年、田村清顯・小平修理中村石川ニ擊ツ利アラズ、退テ守山城ニ入ルト是ナリ、次テ東ヨリ來ル一溪水ヲ受ク、此溪水ノ上流下枝村千一ノ口約一ニ古址城アリ、天正十四年、田村清顯・岩城常隆ト下枝城ニ戰フト是ナリ、次テ上行、合村ニ至リ本河ニ入ル、水路約六里

第四 大瀧根川ハ、大瀧根山ニ發シ、最初幽谷間ヲ北流シ、群山ヨリ出ツル數多ノ溪水ヲ集メ、常葉村一ノ口約ニ至テ堀田川ヲ受ク、折レテ西ニ流ル、常葉村ハ山間ノ繁

岩井澤村

大越古城
門澤古城

村ナリ、請戸川ノ上谷、岩井澤村ニ通スル山路ニ臨ミ、古城址アリ、天正十七年、相馬義胤、佐竹、蘆名、岩城ノ三氏ト連合シテ、田村宗顯ヲ攻ム、宗顯援ヲ政宗ニ乞ヒ、兵ヲ分ツテ數城ニ備ヘ相持ス、相馬氏ノ兵、岩井澤ヲ取テ之ニ據リ、進ンテ常葉ノ城ヲ攻ム、城兵力戰遂ニ抜ク能ハス、僅ニ其外郭ヲ取ル、時ニ伊達政宗既ニ會津ヲ取リ、兵ヲ分テ來援ス、諸氏ノ兵皆退クト云フ、次テ船引村一ノ口約百ニ至テ大越川ヲ合ス、此川ハ、上大越村一ノ口約及門澤村ヨリ來ル者ニシテ、一條ノ山路ヲ開ク、戰國ノ時、之ヲ岩城口ト稱ス、上大越村及門澤村ニ城ヲ構ヒ、此通路ヲ扼守ス、天正十七年ノ亂ニ、岩城氏ノ兵、大越城ヲ取リ、進ンテ門澤城ヲ陥フルト是ナリ、片曾根、文殊ノ二山間ヲ

蘆澤村

大平古城

屈曲、深淵シ、蘆澤村千ノ口約一ヲ過キ、大平村ノ南ヲ經テ本河ニ會ス、水路約十五里、三十丁、大平村ニ古城址アリ、戰國ノ時、田村氏ノ兵之ヲ守ル、天正八年、二階堂義盛、田村清顯ヲ下小山田石川ニ破リ、尙進ンテ大平城ヲ屠リ、歸ル、其後、田村氏ノ兵又之レヲ守ル、十七年ノ亂ニ、佐竹義重之レヲ圍ミ攻ム、大平常伴之レニ死シ、城陥ルト是ナリ

三

第五 小泉川ハ、源アラカ和カ田村、大柳長者、清水ニ發シ、三春町千ノ口約五ノ北ヲ過ク、秋田氏ノ舊城邑ニシテ、四周丘陵ヲ帶ヒ、人家稠密、郡役所田村アリ、古、征夷大將軍田村磨ノ子、清野、鎮守府將軍ニ補シ、初テ此地ニ城キ、子孫世々之ニ居リ、戰國ノ時、其遠孫清顯此城ニ據リ、一時雄

ヲ稱ス、其子宗顯ニ至テ亡ヒ、後・蒲生氏ニ屬ス、徳川氏ニ至リ、初、加藤氏ヲ封シ、後、秋田氏ヲ封ス、次テ南小泉村ニ至リ、本河ニ會ス、水路約三里二十三丁

左朝流

第一 内川ハ、上羽・太村ノ西・岩代境ノ大山脈ヨリ發シ、東南ニ流レテ眞名子越ノ山路ヲ開キ、下羽・末村ニ至テ本河ニ入ル、水路約二里
第二 隈戸川ハ、源ヲ岩代・岩瀬郡隈戸山間ニ發シ、東流シテ本州ニ來リ、岩代境ノ山脈ニ平行セル一水ヲ合シ、矢吹驛ノ西ニ至テ折レテ北ニ向ヒ、岩瀬郡ニ入テ廣戸川ニ合ス、下流岩代陸路矢吹驛ハ、国道線第六ニ應ル驛次ナリ、古城址アリ、驛ノ西八丁ニ在リ、袖城ト名ツク、天正

矢吹驛

ノ頃、矢吹十兵衛之ニ居リ、石川昭光ト決ニ伊達政宗ニ降ルト云フ

下阿武隈河ノ灌域 地勢總括

下阿武隈河ノ灌域ハ、本州ノ北境ニシテ、刈田・伊具ノ二郡及亘理郡ノ北陸ヲ領シ、西境ハ所謂陸羽ノ大山脈ヲ擁シ、南北ハ共ニ大山脈ヨリ東出スル岐脈ヲ以テ限リ、犬牙出入ス、東ハ亘理郡ノ岐脈ニ據ル、地勢概シ山地ニ屬シ、東都河流ニ沿フ地ハ稍平坦ニシテ開墾至リ、山地ハ、肥瘠一ナラス、然レハ養蠶・紙・茶ノ利甚多シ、南境ノ岐脈・更ニ一脈ヲ北發シ、本河ノ灌域伊具ト白石川ノ灌域刈田トトテ分隔ス、故ニ左ニ之ヲ別記ス

本河ノ水路

阿武隈河、北境伊具郡耕野村ニ於テ再々本州ニ來リ、山間
 ナ屈曲濶河ニ、猿超ト號スル地ヲ過ク、河道狹窄、兩岸峻
 峻、水勢奔激ス、古昔阿部貞任、河水ヲ堰キテ官軍ヲ防ク
 ノ地ナリ、其下ニ津波アリ、沼上、渡ト云フ、其間、河底岩石
 亂レ立テ、舟行頗ル、危険ナリ、次テ東ニ向ヒ、更ニ峽間ヲ
 流ル、數里ニシテ丸森村ヲ過ク、津波アリ、細内渡ト云
 フ、館址アリ、丸森館ニ作ル、名ツク、天正十年、伊達政宗、
 相馬義胤ヲ攻メ、其將、伊達實元、子成實ヲ遣リ之ヲ降シ、
 高野壹岐ヲシテ之ニ居ラシムト云フ、次テ金山本郷村
 ナ過ク、古金山城アリ、天正十年六月、伊達氏ノ軍、火ヲ縱
 ヲテ急攻之ヲ拔ク、丸森、金山共ニ養蠶ヲ以テ著ハル、津

丸森村

沼上ノ渡

丸森村

金山本郷村

赤崎渡

小齊村

館山村

角田

青木渡

尾山村

坂津田村

渡アリ、赤崎、渡ト云フ、此邊水勢頗ル疾ク、漸々トシテ逆
 浪ヲ揚ク、左右ノ斷崖盡ク赤シ、故ニ赤崎ノ名アリ、隣村、
 小齊村ニ、古壘址アリ、金山要害ト號ス、古昔相馬氏、井戸
 河將監ヲシテ守ラシメ、以テ伊達氏ノ侵入ニ備フ、又對
 岸館山村ニ館址アリ、大橋館ト云フ、細目修理亮ノ居館
 ナリ、次テ雉子尾川右朝ヲ受ケテ灣曲シ、北ニ向テ平地
 ナ緩流シ、角田千八口約一ノ東ヲ過ク、此地ハ一方ノ名邑
 ニシテ、人烟稍稠密、郡役所伊具、巨理ニ在ル所ナリ、津
 渡アリ、青木渡ト云フ、對岸、藤田村ニ館址アリ、醫王館又
 藥師館ト名ツク、其南、尾山村ニ又館址アリ、北小屋館ト
 名ツク、共ニ兵庫元宗ノ居館ナリ、元宗、浦谷陸前ニ徙
 ル、後、大條玄蕃ヲシテ守ラシムト云フ、次テ坂津田村ヲ

平貫村

小坂村

小坂渡

下郡村

亘理

中泉村

津波

高須賀村

過シ、村ニ館址アリ、古内館ト名ツク、岩崎右馬助ナル者
 ノ居館ナリ、次テ平貫村ヲ過シ、館址ニアリ、一ハ南橋館
 ト云フ、櫻田玄蕃ノ居館ナリ、一ハ北橋館ト云フ、澁谷大
 隅ノ居館ナリ、次テ小坂村ヲ過シ、津波アリ、小坂渡ト云
 フ、是ヨリ下流ハ陸前ノ國境ヲ劃シ、彎曲シテ東ニ流レ、
 下郡村ノ北ヲ過シ、館址アリ、義家古館ト云フ、相傳フ源
 義家・貞任ト兵ヲ接シ利アラヌ、此館ニ據テ兵ヲ整フト、
 此地・國道線第五十ニ當ル、其南小堤村ニ亘理驛アリ、之ヲ
 濱街道ト云フ、同村ニ館址アリ、往古・亘理・兵庫頭允宗之
 ニ居リ、後伊達氏ノ臣・伊達安房之ニ居ル、次テ中泉村ヲ
 過シ、津波アリ、藤波渡ト云フ、國道ノ要津ナリ、次テ高須
 賀村ニ至リ海ニ入ル、水路五十七里、濶二百間、河口ニ荒

瀨波港

瀨港千六百約一アリ、港濶東西九丁餘、南北三丁五拾七間、
 深一仞ヨリ二仞ニ至ル、正東ニ向フ、之ヲ大湊ト名ツク、
 又河口ノ南ニ海水ノ灣入スルモノアリ、島海ト號シ、其
 灣口ヲ小湊ト名ツク、水邊白沙青松廻繞相映シ、風景絶
 佳ナリ

右朝流

阿武隈河ノ下流ニ歸注スル右朝流ノ名アル者ハ、唯一
 水アルノミ、之ヲ雉子尾川ト稱ス、源ヲ大内村ノ山中ニ
 發シ、篠卷峠ノ山路ヲ開ク、中村郡字多ニ通スル直路ナリ、
 左右ノ諸山ヨリ出ツル溪水ヲ集メ、北流シテ大内村ヲ
 過シ、岐路アリ、駒嶺驛郡字多ニ通ス、之ヲ大澤峠ト云フ、村
 其岐點ヲ占ム、局處ノ要地ナリ、古城址アリ、陣營城ト名

大内村

雉子尾川

ツク、天正年間、相馬義胤・伊具郡ヲ侵シ、之ニ據テ屢、伊達氏ト戦フ、次テ伊手村ヲ過ク、又岐路アリ、新地宿_{宇多}ニ通ス、之ヲ伊手峠ト云フ、館址アリ、柴小屋館ト云フ、佐藤紀伊ノ居館ナリ、次テ金山本郷ニ至テ本河ニ會ス、水路約四里

左朝流

左朝流ノ大ナル者亦一川アルノミ、白石川是ナリ、此川刈田郡一圓ヲ領ス、其地山嶽四圍、別ニ一小灌域ヲ爲スモノ、如シ、岐脈内地ニ連亘シテ、地勢凸凹參差、烟戸稀少、村家河流ニ沿フテ僅ニ之アルノミ
白石川ハ、源ヲ_下下峠ニ發シ其山徑ヲ開ク、大山脈ヲ踰ヘ羽前ニ通スル路線ナリ、最初南流シ湯原驛ヲ過ク、仁

伊手村

湯原驛

白石川

下七ヶ

宿

井宿峠ノ道路爰ニ相會ス、次テ東ニ向ヒ峠田村ヲ過ク、道路爰ニ岐分シ、岩代伊達郡茂住村ニ通ス、福島縣此路線ヲ以テ山形_前ニ往來スル縣道トス、次テ滑津村ヲ過ク、古壘址アリ土人之ヲ八幡館ト云フ、大關山城守ノ故墟ナリ、後、天文年間、中野常陸之ニ居ル、往昔關門ヲ置キ急瀬關ト稱ス、仍テ村名ヲ關ト云フ、次テ横川_{左朝}ヲ受ク、次テ渡瀬驛_{右朝}ヲ過キ、戸澤川_流ヲ受ク、此川大峠ノ山徑ヲ開キ、狹谷ヲ南ヨリ北ニ流レテ、上戸澤・下戸澤ノ二村ヲ過ク、此二村及渡瀬以西ノ五村ヲ總稱シテ山下七ヶ宿ト云フ、南羽前街道是ナリ、二水相會シテ後、東北ニ向ヒ、八森峠ノ北麓ヲ繞リ、白石本郷_{千五百}ノ北ヲ過ク、國道線ニ臨ミ、本州北境、樞要ノ地ニシテ人家櫛比、市街

白石

繁華ナリ、橋アリ、大橋尺長六十四間二尺二寸ト云フ、木橋ナリ、往
昔、城アリ、上杉景勝ニ屬シ、東奥ノ咽喉ヲ扼ス、景勝其將
甘糟備後ヲ置テ之ヲ守ラシム、慶長ノ役ニ、伊達政宗・徳
川氏ノ命ヲ受ケ之ヲ攻ム、其將・片倉景綱奇襲シテ之ヲ
拔ク、政宗功ヲ以テ之ヲ景綱ニ與フ、子孫世々相繼テ之
ニ居ル、戊辰ノ役ニ、奥羽諸藩此地ニ會盟シ、會津ヲ援ケ
乃、公議所ヲ開ク、亂平クル後、南部利恭ヲ徙封シ、明治二
年、按察使府ヲ設クト云フ、次テ鷹巢川右朝ヲ受ク、此川
一ニ齋川ト名ツク、源ヲ越河村ノ山中ニ發シ、南流シテ
國道線ニ沿ヒ、越河村ヲ過ク、古壘アリ、別當館ト號ス、相
傳フ、泰衡ノ臣・金剛別當ノ墟ナリト、次テ齋川村ヲ過ク、
古壘アリ、馬牛館ト號ス、相傳フ、古、桑折播磨ノ居ル處ナ

越河

齋川

中目村

リト、次テ中目村ヲ過ク、古壘三アリ、一ヲ泰衡館ト號ス、
傳ヒ云フ、往昔藤原泰衡之ニ居リ、後、結城朝光相尋テ之
ニ居ルト、廢池アリ、土人衡池ト呼フ、一ヲ大平館ト云フ、
相傳フ、中目日向ノ墟ナリト、一ヲ赤館ト號ス、應永九年、
伊達政宗大勝南朝ニ應ジ、兵ヲ起シ、赤館城ニ據ル、足利
滿兼、上杉氏憲ヲシテ之ヲ伐タシム、政宗敗レ、會津ニ走
ルト、即是ナリ、次テ郡山村ニ至リ、白石川ニ會ス、白石川
同方ヲ逐フテ、宮驛ノ南ヲ過ク、宮ハ本州最北ノ驛次ナ
リ、其下ニ至リ、松川左朝ヲ受ケ、本州ヲ去テ、陸前柴田郡
ニ入ル下流陸前誌

宮

久慈河ノ濫域

地勢總括

久慈河ノ灌域ニシテ本州ニ屬スル部ハ、所謂其上谷ニシテ、東白川郡ノ大半ヲ領シ、山嶽四圍別ニ一小世界ヲ爲スモノ、如シ、其周脈南ハ急峻ニシテ、北ハ却テ險ナラス、是レ此地ヲ常陸ニ編セスシテ、本州ニ屬セシ所以ナリ、域内山巒綿亘起伏シ、平地ヲ見ルコト甚稀ナリ

本河ノ水路及諸朝流

久慈河ハ、源ヲ八溝山ニ發シ、初東北ニ流レ、棚倉ノ南ニ至テ大草川左朝流ニ合ス、大草川源ヲ山田村ノ入山ニ發シ、山間ヲ曲流シ、棚倉市街ノ南ニ至テ矢洗川ヲ受ク、矢洗川ハ、杜川阿右朝流ノ分流ナリ、水路約二十丁、其間ニ堰ヲ設ケ、棚倉市街ノ用水トス、市街ノ北ニ於テ茨木街道ヲ横截ス、橋アリ入野橋長二十間ト云フ、木橋ナリ、

大草川

棚倉

蓋此川ハ人工ヲ以テ開鑿シ、棚倉城ノ壕ニ灌漑スルノ用ニ供セシモノ、如シ、棚倉千人口約一ハ、阿部氏ノ舊城邑ニシテ、茨木ニ通スル縣道ニ臨ム、山間ノ一市會ナリ、郡役所東白アリ、戰國ノ時、森大膳ト云フ者、此城ニ據リ、佐竹氏ニ隸ス、慶長ノ役ニ、佐竹氏兵ヲ本城ニ備ヘ、兩端ヲ望觀スト云フ、亂平クル後、徳川氏初立花宗茂ヲ封シ、尋テ易封數氏、最後阿部正升ヲ封ス、戊辰ノ役ニ、阿部氏賦徒ニ與ミス、六月二十四日、官軍城ヲ攻ム、砲戰半日、城主城ヲ棄テ須賀川ニ走リ城陷キル、市街ノ南ニ於テ大草川縣道ヲ横截ス、橋アリ大草川橋長未詳幅ト云フ、圮橋ナリ、久慈河大草川ヲ受クル後、縣道ヲ横截ス、橋アリ久慈川橋長二十間三二尺ト云フ、圮橋ナリ、次テ道路ニ沿

八槻村

フテ南下シ、八槻村ニ至リ、宮川右朝流ニ合ス、宮

蘆宿村

川ニ板橋ヲ架シ縣道ヲ通ス、宮本橋長一三間ト云フ、

川上川

次テ蘆宿村ニ至リ稻澤川右朝流ニ合ス、稻澤川

那倉村

ニ板橋ヲ架シ縣道ヲ通ス、稻澤橋長二四尺ト云フ、次

種田村

テ川上川左朝流ヲ受シ、川上川ハ、源ヲ那倉村入山ニ

瀧川

發シ、那倉越ノ山路ヲ開キ、常陸ニ通ス、山間ヲ西流シ、南

瀧川

境ノ諸山ヨリ出ツル溪水ヲ集メ、折レテ北ニ向ヒ川上

瀧川

村ヲ過キ、竹内村ニ至テ小山川ヲ合シ、又西ニ向ヒ、本河

瀧川

ニ入ル、次テ更ニ南流シ、種田村ニ至テ縣道ヲ横截ス、舟

瀧川

渡アリ、種田渡水幅四ト云フ、次テ瀧川左朝流ヲ合

矢祭山ノ

次テ嶺巖ニ支テレ屈折曲流シ、西南ニ向フ、所謂矢祭山

八景

ノ八景是レナリ、次テ八溝川右朝流ヲ受ケ、南境脈ノ凹

八景

口ニ入テ常陸ニ出ツ、下流常陸州内ヲ流ル、水路約

八景

十里

東流シテ直ニ東洋ニ注ク諸川ノ瀼域

地勢總括

中央脈ト海岸トノ間ニ狹長ナル一帯地ヲ存ス、其地ノ
諸川ハ皆源ヲ中央脈ニ發シ、東流シテ直ニ東洋ニ注ク、
其諸川各別ニ一小瀼域ヲ爲スト雖、其形勢、大抵皆越テ
同スルヲ以テ、總シテ之ヲ一瀼域ト視做ス、其地菊多・磐
前・磐城・稻葉・行方・宇多・亘理ノ七郡、及東白川・田村二郡ノ
小部ヲ領シ、地勢中央脈ヨリ數多ノ岐脈ヲ東發シ、恰如

齒ノ如ク、諸川齒間ヲ流ル、概シテ西邊ハ山嶽重疊シテ、村落其間ニ點在シ、瀨海ノ地ハ肥瘠混交水田多ク、又魚鹽ニ饒カナリ、左ニ其諸川ヲ南ヨリ逐次ニ枚舉シ、併セテ其灌沃スル有名地、及海岸ノ形勢ヲ記サントス
 第一 鮫川ハ、源ヲ東白川郡赤坂・東野・村松・曾根ニ覆シ、初北流シ竹貫村ヲ過ク、古城址アリ山上ニ在リ、駒城一ニ櫛城ト名ツク、竹貫氏數世之ニ居リ、岩城氏ニ隸シ、其西境ヲ成ルト云フ、東ニ向ヒ物見山ヨリ出ツル山上川ト合シテ、諸嶽ノ間ヲ屈曲シ、菊多郡ニ入り、大平村ニ至テ柴山ヨリ出ツル大山川ヲ受ケテ南ニ向ヒ、小川村ニ至テ小川ヲ合シ、再東ニ向ヒ大倉村ト植田村トノ間ニ至テ、濱街道ヲ横截ス、舟渡アリ大倉渡水幅二ト云フ、次

竹貫村

天平村

小川村

大倉渡

岩間村ニ至テ海ニ入ル、水路約十六里、川口以南ノ海岸ニ九面ノ一港アリ、港内一丁許、深一仞四尺餘、東北ニ向フ、固ヨリ小港ニシテ大船ヲ繫ク可ラス、其海岸南脈ノ餘派、近ク海濱ニ追マリ、濱街道國道十五號其間ヲ通ス、之ヲ新關ト云フ、關ヲ降レハ青松白沙相映シ、近ク波間ニ屹立スルヲ松川磯トシ、遠ク望ムヲ小名ノ岬トス、風景頗佳ナリ、海岸ニ驛次アリ關田ト云フ、街道ノ門闕タリ、戊辰ノ役ニ、仙臺ノ兵・磐城平ノ兵ト共ニ之ニ據リ官軍ヲ拒ム、官軍勿來關邊ノ山上及街道ヨリ並進シ、驛次之ヲ拔クト云フ、驛ノ西ニ窪田村千人口約一アリ、稍繁村ナリ、古城址アリ窪田城ト云フ
 第二 野田ノ玉川ハ、源ヲ上藤原村郡前天狗立曾根ニ

九面港

小名ノ岬

關田驛

戊辰ノ役

窪田城

窪田古城

湯本

瀧尻川

田部

戊辰ノ役ノ戦地

東野村

發シ、其上流ハ磐前郡ニ在テ東流シ、白鳥村ニ至テ街道
 ナ横截シ、彎曲シテ湯本驛一人口約ヲ通過シ來ル一ノ溪
 水ヲ合シ、南ニ向ヒ菊多郡瀧尻村ニ至テ、瀧尻川ヲ受ク、
 此川源ヲ上釜戸村ニ發シ、東南ニ流レ、田部驛ニ至テ街
 道ヲ横截ス、驛南ニ新田坂アリ、即山間ノ鑿開道ニシテ
 植田驛ニ出ツ、戊辰ノ役、賊兵此險ヲ守リ官軍ノ劇戰セ
 シ地ナリ、次テ泉村ヲ過ク、本多氏ノ舊陣屋ニシテ、一ノ
 聚落ナリ、戊辰ノ役、官軍之ヲ取り、磐城平ヲ攻ムルノ據
 點トス、二水合スル後、磐城・菊多ノ郡界ヲ畫シ、下川村ニ
 至テ海ニ注ク、水路約五里、鮫川河口ヨリ野田、玉川河口
 ニ至ル、海岸ハ、此兩川ヲ分隔スル岐脈ノ餘派ノ延伸ス
 ルアリテ、稍海中ニ挺出ス

小野新町

西小川村

平

第三 夏井川ハ、稍大ナリ、源ヲ大瀧根山田村ニ發シ、大瀧根川ト相背馳シテ、田村郡ニ在テ南流シ、二溪水ヲ合ス、其一水、小野新町一人口約一ヲ過ク、山間ノ一市場ナリ、次テ東ニ轉シ、檜葉郡ニ入り、其西南境ヲ流レ、柴山ヨリ出ツル三坂川右約六里ヲ受ケ、漸ク東南ニ向ヒ檜葉郡ヲ去ル、是ヨリ下流ハ、曲折濼洞シテ、磐前・磐城ノ郡界ヲ劃シ、支派ヲ分チ、磐城郡ノ田圃ニ灌沃ス、西小川村ニ至テ小玉川右約五里ヲ受ケ、次テ川中子村ニ至リ、好間川ヲ受ケ、平右約五百ノ東北ヲ過ク、安藤氏ノ舊城邑ニシテ、區裁判所、警察署、病院、郡役所菊多郡ヲ管治ス、回漕會社等アリ、人煙繁盛、濱街道第一ノ市街タリ、西南ニ尼子ノ長橋長九十六尺アリ、新川ト名ツクル小流及其沿岸阜

平城址

瀧ノ地ニ架ス、東北夏井川ヲ帶フ、濱街道ニ舟渡アリ、鎌田渡本橋三間三ト云フ、明治十八年、新ニ橋ヲ架シ、鎌田橋三間三尺五寸三ト云フ、木橋ナリ、舊城址アリ、應永二十一年、岩城氏十六世隆忠初テ築キ、子孫世々之ニ居ル、貞隆ニ至リ、慶長五年ノ役ニ、上杉景勝ニ黨ス、因テ徳川氏其城邑ヲ収メ、出羽ノ田利ニ移シテ鳥居忠政ヲ封シ、後、安藤信成ヲ封ス、戊辰ノ役ニ、賊ニ與ミシ官軍之ヲ攻ム、七月十三日、劇戦アリ、城中彈藥盡キ、城ヲ燔テ遁走ス、次テ北ニ向ヒ下神谷村千八百約一ヲ過リ、下大越村ニ至テ海ニ注シ、水路約十五里二十丁、野田ノ玉川河口ヨリ、夏井川河口ニ至ル迄ノ海岸ハ、低濱岡陵相錯ハリ、少シク出入スルヲ以テ岬灣アリ、小名ノ岬一名神白岬ハ、玉川河口

小名濱

中ノ作村

江名村

豐岡村

磐城富士山

仁井田村

ノ東方ニ突出ス、其南腹ニ小名濱千八百約三ノ聚落アリ、沿海第一ノ漁場トス、港南ニ向テ廣二丁餘、深三仞ニ過キス、泊舟ノ便ニ乏シ、其東北一里ニシテ中ノ作村ニ港アリ、港東南ニ向テ廣一丁許、深二仞二尺、船舶ノ出入小名濱ヨリモ多シ、其北ニ江名村千八百約一アリ、又其北ニ豐岡村千八百約一アリ、共ニ漁鹽ノ利多シ

第四 仁井田川ハ、源ヲ猫鳴山ニ發シ山間ヲ南流ス、逢瀬・松風ノ二瀑布アリ、駒込村ニ至リ磐城富士山ニ支ヘテレ、折レテ東ニ向ヒ磐城郡ノ中央ヲ流レ、仁井田村ニ至リ濱街道ヲ横截シテ海ニ入ル、水路約五里、夏井川河口ヨリ此河口ニ至ル迄ノ海岸ハ、平齊ニシテ卑濕ニ屬シ、沃壤多ク米鹽ニ饒カナリ

久ノ濱村

第五 大久川ハ、源ヲ酒造山ニ發シ、東南ニ流レ久ノ濱村

四ツ倉村

千一口約一ニ至テ、濱街道ヲ横截シ海ニ入ル、水路約二里

江ノ濱港

半、久ノ濱ハ街道ノ驛次ナリ、南ニ四ツ倉村ニ千口約アリ、亦海

濱ノ驛次ナリ、此二驛間ニ山脈ノ海ニ斗出スルアリ、奇石怪岩海上ニ屹立シ、小港アリ江ノ網ト云フ、大船ヲ容ル、能ハス、北ニ廣野驛アリ、此二驛間亦峭壁海ニ沿ヒ、風波岸ヲ拍チ、行旅殆ト通セス

下川内村

第六 木戸川ハ、源ヲ大龍根山ニ發シ、矢大臣山ヨリ出

木戸驛

ツル渡瀬川ト共ニ諸溪水ヲ合シテ、山間ヲ深洄シ下川内村ニ至テ戸渡川ヲ容レ、檜葉郡ノ中央ヲ東流シ、木戸驛ノ北ヲ過キ、濱街道ヲ横截シ、水路約九里二十六丁ニシテ、前原村ニ至リ海ニ入ル、其街道ヲ横截スル處、舟渡

木戸ノ渡

ナリ、木戸ノ渡十間ニト云フ

富岡驛

第七 小濱川ハ、源ヲ鷹取谷山ニ發シ、富岡驛ヲ過キテ海ニ入ル、水路約四里二十九丁、富岡ハ濱街道ノ驛次ニシテ、郡役所檜葉郡ノアリ、木戸川ノ河口ヨリ小濱川ノ河口ニ至ル迄ノ海岸ハ、粗平衍ニシテ港灣ナシ

岩井澤村

第八 請戸川ハ、源ニアリ、一ハ津島川ト稱シ源ヲ天王山ニ發ス、一ハ井出川ト稱シ、源ヲ鎌倉嶽ニ發シ、岩井澤村ヲ過ク、岩井澤中央山脈ヲ踰フル山路ニ臨ム、天正十七年、相馬義胤此地ニ陣シ常葉ヲ攻ムト云フ、二水東流シ、下流ニ至テ波江驛ヲ挾ミ、合シテ請戸川ト爲リ、請戸村千一口約一ニ至テ海ニ注ク、水路約十里、河口小船ヲ泊スヘシ、其北ニ三枚岩ノ礁磯アリ、富岡驛ヨリ波江驛ニ

請戸村

スヘシ、其北ニ三枚岩ノ礁磯アリ、富岡驛ヨリ波江驛ニ

新山

小高川

至ルノ間ニ熊川・新山ノ二驛アリ、海岸ヲ距ル甚遠カラ

小高川

城ノ内城

第九 小高川ハ、源ヲ八丈石山ニ發シ、東流シテ小高驛
千二百約一ヲ過ク、驛北ニ相馬氏ノ古城址アリ、今、小高神
社ヲ安ス、元弘三年、相馬光胤初テ之ヲ築キ堀内ノ城ト
號ス、延元元年、北畠顯家來リ攻メ之ヲ陷ル、光胤之ニ死
スト云フ、次テ塚原村ニ至リ海ニ入ル、水路約四里

上太田村

第十 小濱川ハ、源ヲ米粉坂ニ發シ、上太田村ニ至テ濱
街道ヲ横截ス、橋アリ、太田橋一長十六間幅ト云フ、次テ小
濱村ニ至リ海ニ入ル、水路約五里二十二丁

第十一 新田川ハ、源ヲ瀬上山ニ發シ、行方郡西部ノ山
中ニ於テ、飯豊川・比曾川等ノ諸水ヲ集メ東流シ、行方郡

原ノ町

原ノ町

ノ中央ヲ貫キ、原町驛千一口約一ノ東ニ至テ水無川ヲ受
ク、水無川ハ其水體流スルヲ以テ名ツク、次テ澁佐村ニ
至リ海ニ入ル、水路約十里、原町驛ノ南ニ原町ノ曠野、
二十里南丁アリ、往時ハ有名ノ牧場ニシテ野馬群集セシ
カ、今時ハ唯空原茫々タルノミ

鹿島驛

第十二 馬野川ハ、源ヲ二郷森ニ發シ、行方・宇多ノ郡界
ヲ劃スル岐脈ニ平行シテ、長谷ヲ東流シ、平野ニ出ツル
ニ及ンテ東南ニ向ヒ、鹿島驛千二口約一ヲ過キ、馬崎村ニ
至テ海ニ入ル、水路約九里

中村

第十三 宇多川ハ、源ヲ靈山ニ發シ、伊具郡ノ南端ヲ經
テ玉野川ヲ合シ、宇多郡ノ南境ヲ東流シ、平地ニ出テ、
紆曲シ中村千一口約三ヲ過ク、濱街道ノ驛次ニシテ相馬

中野村

中村

岩井

松川浦

戊辰ノ役ノ戦地

氏ノ舊城邑ナリ、河橋アリ中野村千口約一ニ通ス、宇多川橋間三三六ト云フ木橋ナリ、治安裁判所・警察署・病院・郡役所ニ宇田行カスアリ、其繁華平ニ亞シ、城址ハ市街ノ西ニ在リ平城ナリ、相馬氏世之ニ據レリ、次テ岩子村ニ至テ、岩井驛ヲ過キ來タル小泉川ヲ容レ、松川浦ノ灣ニ入ル、水路約七里八丁、松川浦ハ廣袤里餘ノ良灣ナリ、懐ムラシクハ灣口暗礁アリテ大船通セス、灣中十二ノ勝景アリ、灣口ニ鶴尾ノ岬アリ、坐シテ東洋ヲ一望スヘシ、其北ニ原寇灣アリ、船泊場ナリ、然レモ港形ヲナスニ過キス、故ニ大船ヲ泊スルニ便ナラス、灣北ニ今泉村アリ、戊辰ノ役ニ、官軍駒嶺ヲ攻ムル時、海濱ヨリ進ム軍ノ劇戦セシ處ナリ

駒ヶ嶺

森牛館

戊辰ノ役ノ戦地

宇多川以北ハ、山脈海岸ニ近ク相迫マリ、其間狭長ナル一帯地ニ過キス、テ流水皆短ク、更ニ記スルニ足ルナシ、但濱街道其地ヲ通走ス、故ニ今其路線及驛次ヲ揭示セントス、山脈中、鹿狼山ヨリ一岐脈ヲ岐出シテ東ニ低レ、濱街道ヲ横截ス、之ヲ駒嶺トス、山南ニ駒嶺驛一ノ口約百アリ、驛中一岐路ヲ分テ伊具郡ニ通ス、古壘址アリ、森牛館ト稱シ、相馬氏ニ屬ス、天正年中、相馬氏ノ將・藤崎内藏允ヲ置テ伊達氏ニ備フ、政宗攻メテ之ヲ陷サシ、爾後世々仙臺ニ屬シ、關門ヲ置テ成ル、戊辰ノ役、仙臺ノ兵、官軍ヲ此險ニ要シ、頗ル劇戦アリト云フ、山南ニ新地驛ノ口約一千アリ、驛ニ古壘址アリ、戰國ノ時相馬氏ニ屬ス、天正十七年、相馬義胤・佐竹・岩城・蘆名ノ諸氏ト兵ヲ連テ、田

新地十二里九間四丁
坂元三十一里六十八丁
山下二里八間一丁
亘理

縣道

茨城道 賀石郡 矢火驛ニ至ル陸路多
中畑十二里八間七丁
釜子五里三六間丁
棚倉
館野十二里三間八丁
大槻十三里四間丁
徳田境合十三里六丁二間
三尺

釜子驛ヨリ岩代隈戸驛ニ至ル道

釜子十一里二間四尺四丁
田島十一里三間六尺四寸
白河十三里四寸
隈戸合六里三十二丁四十三間四尺

福島道 郡山驛ヨリ岩代隈戸驛ニ至ル陸路多

平三十四里四間丁
合戸四里七三間一尺丁
中寺十三里七間一尺三寸
上三坂十一里二間一尺丁
鶴子十一里一丁
蓬田十二里一丁
田母神十一里三間四尺五寸
糠塚十一里三間五尺五寸
谷田川十一里二寸
丁守山五里六間二尺丁
郡山合十九里三十二丁五十
一間二尺

三春ヨリ小名濱ニ至ル道

三春三十一里五間丁
柳橋三十五里二間二寸
小野新町三十二里三寸
上三坂八里九間八寸
平十三里二寸
中作十三里二寸
小名濱合
二十五里二十一丁五十五間

羽前道 郡山形縣岩代國伊達郡小名濱下境ヨリ

小坂境二十二里五間丁
上戸澤三十二里四寸
下戸澤十一里九寸
渡

瀬丁一里九二間十九
關丁一里一十間十
滑津十一里五間十丁
峠田四一丁里

八間十湯原三二里十
白石ヨリ下戸澤ニ至ル道
白石三三三間十二
下戸澤

中村ヨリ福島道伊予邊多郡中村ニヨリ岩代
中村十二里三丁
金谷原丁三三二七間八
松房合四里三十

一丁四十八間
里道
平ヨリ釜子ニ至ル道

岸十三里九三間五
石住八丁五二間十
松川丁三三十一間一
竹貫

平十一里三三三間三
湯本十三里八三間三
上遠野十三里八三間六
根

一丁三三三間九
戸倉三三三間十丁
探本三三三間十丁
淺川一里

三三三間九
柳倉四十七間九
堤丁四十四間四
釜子合二十

柳倉二里三三三間三
下泉十一里五三間十
中野丁二六十七間七
川邊十二里五

三三三間三
岩代小作田十二里八三間四
三尺五
守山丁一十里四十五間五

赤沼三三三間三
荒井丁六里七
三春合十五里二十八
陸前路角田通伊具郡前木野村ニヨリ陸前

前田丁三三三間三
角田五三三間七丁
陸前榎木合七里

五丁四十三間

福島路玉野通宇多郡中村ニ達リ岩代伊

中村里一 山上里二 新驛八丁十 東玉野丁十八 玉野里二

四十間三尺三十 岩代石田合八里十二丁三十四間二尺

福島路川俣通伊達郡川俣之町ニ達リ岩代

原之町八丁十 大原八丁十 八木澤十六丁二 草野里二

一 二枚橋三十九間丁 岩代川俣合九里三十丁三十九間

沿革畧史

磐城國ハ、本陸奥ニ屬シ、養老中之チ割テ國ヲ置キ、後、又併セテ陸奥ニ入ル、明治元年十二月之チ分ツテ五國ト

ス、本州其一タリ、往昔、征夷大將軍坂上田村麿ノ子、清野、鎮守府將軍ニ補シ、三春郡田村ニ城ヲ之ニ居リ、其子孫遂ニ田村ヲ以テ族稱ト爲シ、世々之ニ居ル、又藤原清衡、陸奥・出羽ノ押領使タル時、岩城郡ヲ其女壻・平成衡ニ讓與ス、之ヲ岩城氏ノ祖トス、成衡五子ヲ生ミ、乃其地ヲ割テ分與ス、是レ磐城五郡菊多、磐前、磐後、磐左、磐右ノ權興ナリ、文治五年、源頼朝泰衡ヲ誅シ、奥羽ノ地ニ諸將ヲ分封スル時、相馬師常守多行方二郡ヲ領シ、宇田郡小高結城朝光白河郡ヲ領シ、朝光下總ノ結城ニ在テ之ヲ領ス、孫祐廣始テ岩城田村二氏仍故地ヲ領ス、建武中興、源顯家州守ニ任シ、鎮守府大將軍ヲ兼ス、足利尊氏ノ反スルヤ、顯家兵ヲ率ヒ西上シ、戰死ス、奥羽ノ州族多ク尊氏ニ應ス、獨、田村輝顯

結城親朝官軍ニ屬ス、興國元年、顯家ノ弟、顯信州ノ介ニ任シ、白河ニ鎮ス、尋テ尊氏・畠山高國・吉良貞家ヲ探題トシ、州内ヲ略定ス、親朝等叛テ之ニ降リ、顯信西歸シ、州内皆尊氏ニ歸ス、既ニシテ伊達氏漸ク強大、政宗ニ至リ、刈田・伊具・宇多・亘理ノ四郡ヲ併ス、元中八年、將軍義滿、奥羽ヲ以テ鎌倉管領ニ隸ス、管領持氏亡ヒ、州内統一スル所ナシ、天文中、伊達政宗六世ノ孫・晴宗、兵勢益熾シ、ナリ、將軍義晴以テ探題トス、是時ニ方テ相馬・田村・岩城・結城・石川諸氏競起リ、互ニ相呑噬ス、天正ノ末、晴宗ノ孫・政宗、既ニ蘆名ヲ滅シ、石川ヲ降シ、悉ク其地ヲ有ス、天正十八年、秀吉東征シ、政宗ノ侵畧スル所、及田村ノ采地ヲ沒シ、テ浦生氏郷ニ與ヘ、結城ノ地ヲ關一政ニ賜フ、慶長十五年封

後代封セラルル者數氏アリ、文政ノ初、阿部正權ニ賜ヒ、應中、榑倉ニ轉シ、二本松藩ニ命ジ、テ城ヲ守ラシム。
 岩城・相馬二氏ノ地ハ舊ニ仍ル、關原役後、岩城貞隆ノ地ヲ收メ、相馬氏ノ封疆ハ故ノ如ク、白石ヲ伊達氏ニ加封ス、其餘前後封ヲ受クル者、磐城平初、島居忠政三春、後、安藤信成、秋、田棚倉初、立花宗茂、後、本多忠如、湯長谷、政亮、守山、頼元、凡七番、王政維新、按察使府ヲ白石ニ設ク、尋テ之ヲ改テ角田縣トナス、既ニシテ皆廢シ、テ縣トシ、又併シ、テ平縣ヲ置キ、磐前縣ト改稱シ、明治九年、福島縣ニ合ス、而シテ全國第二軍管・仙臺鎮台・第三師管ノ管城ニ屬ス。

阿武隈河ノ灌域

地勢總括

十三丁

本河ノ水路

十四丁

左朝流

十八丁

右朝流

二十二丁

阿賀河ノ灌域

地勢總括

二十二丁

其一 日橋川ノ水路

附
= 猪苗代湖及
注ク諸川

日橋川ノ左朝流

二十九丁

日橋川ノ右朝流

三十四丁

其二 只見川ノ水路

三十六丁

只見川ノ左朝流

三十七丁

只見川ノ右朝流

三十八丁

交通路

四十丁

沿革專史

四十四丁

兵要地誌 大日本之郡卷之三十一

陸軍教授三木信近 纂述

岩代國誌

總論

岩代國ハ、東山道ノ中央ニ位シ、西一邊北陸道ニ接シ、往時ハ陸奥國ノ西南隅ヲリ、維新ノ際陸奥ヲ割キテ五國ヲ置シ、岩代其一ニ居ル、北緯三十七度一分ニ起テ、三十七度五十八分ニ亘リ、東經零度五十七分ヨリ西經零度三十九分ニ距ル、疆域、北ハ羽前、東ハ磐城、南ハ上野、下野、西ハ越後ニ至ル、廣袤、東西凡二十里餘、南北凡二十一里餘、之ヲ割シテ十郡トス、伊達郡ハ國ノ東北隅ニ在リ、信夫郡ハ伊達ノ西南ニ在リ、安達郡ハ伊達・信夫ノ南ニ在

リ、安積郡ハ安達ノ西南ニ在リ、岩瀬郡ハ安積ノ南ニ在
リ、耶麻郡ハ信夫、安達ノ西ニ隣シ、河沼郡ハ耶麻ノ南ニ
在リ、大沼郡ハ河沼ノ西南ニ在リ、北會津郡ハ大沼ノ東
ニシテ、東、猪苗代湖ニ瀕ス、南會津郡ハ北會津及大沼ノ
南ニ在リ、國中第一ノ大郡ナリ、全國福島縣ノ管轄ニ屬
ス、人口四十八萬四千四百七十九、明治十四年ノ調査ニ據ル、國ノ形
恰、駒兒ノ坐スルカ如シ、其地勢、山脈南走シテ州中ヲ貫
キ、南境ニ至テ更ニ鬱積シ、西折シテ二野ヲ界ス、又北境
ニ一大岐脈ヲ發シ、蜿蜒西走シテ、南ニ轉シ、羽、越ヲ界ス、
而シテ其東ハ阿、武、隈、河北流シテ漕運ヲ通ス、但秋漲ノ
患ナキ能ハス、猪苗代ノ巨浸、衆水ト同シク西疆ニ注キ、
亦漕輸ニ便ナリ、河干ノ地概、廣坦ニシテ、蠶桑ニ宜シ、氣

候、極暑九十度極寒二十九度

物産ノ主ナル者 礦物ハ金、銀、鉛、硯石、磁石、燧石、白土、雲
母、山鹽、硫黃、土硫黃、植物ハ麻、苧、藍、紫、蕨、諸藥草、煙草、桑、茶、
楮、漆、栗、刺、胡、桃、柿、林、檜、梨、材、木、松、露、松、藪、葡萄、蘭、草、動物ハ
馬、熊、鷹、山、雞、鮭、鱒、鯉、鮒、年、魚、鱈、種、孫、太、郎、虫、製造物ハ生糸、
真綿、綿、白、紬、太、織、羽、二、重、龍、門、絹、斜、子、絹、繪、絹、平、絹、紋、織、絹、
白、木、綿、麻、布、絹、子、苧、布、信、夫、摺、蚊、帳、地、青、苧、品、繩、金、引、苧、紙、
雨、合、羽、陶、器、漆、器、銅、器、蘭、麩、蠟、燭、刀、物、正、阿、彌、細、工、物、鍋、釜、
鐵、瓶、油、伽、羅、油、木、地、烟、管、烟、草、入、燧、鍊、製、造、食、物、酒、氷、豆
腐、氷、餅、索、麵、干、瓢、葛、粉、乾、柿、等、ナリ

山論

中央水界線タル大山脈、南下シテ州内ヲ貫キ、是ヨリ支

出スル岐脈ノ大ナル者三條アリ、蜿蜒盤回シ以テ國境ヲ擁ス、即一ハ東ニ馳セ次テ南ニ連リ、磐城界ノ一部ヲ劃シ、一ハ初、西走シテ北、羽前界ヲ劃シ、次テ南折シテ越後界ヲ劃ス、一ハ西ニ亘リテ南、上野・下野ノ界ヲ劃ス、是ヲ以テ本州ノ山脈ヲ網別シテ六山脈トス、中央脈・東北脈・東脈・北脈・西脈・南脈是ナリ

中央脈

中央脈ハ、十郎峠トキ・嶽州トキノ交界點ニ起テ北ヨリ南ニ亘リ、最初羽前ノ置賜ト伊達・信夫トノ境域ヲ劃シ、次テ國內ニ入り、蜿蜒同方向ヲ逐フテ、信夫・安達ト耶麻トノ郡界ヲ劃シ、次テ安積・岩瀬ノ二郡ヲ貫キ、最後磐城ノ西白河郡ト、岩瀬・會津トノ境域ヲ限リ、甲子山ニ終ル、此山脈ハ

祝甲嶽

東吾妻山

鏡ヶ城

安積山

天白嶽

甲子山

本土ノ中央水界線ニ屬シ、東阿武隈河ニ會スル諸水ト、西・猪苗代湖ニ朝スル諸水トヲ分流シ、以テ本州ヲ兩斷ス、古來所謂會津仙道是ナリ、山脈以西ヲ會津トシ、以東ヲ仙道トス、脈中高山峻峯ノ有名ナル者ヲ祝甲嶽トス、羽前界ニ在リ、近來隧道ヲ開キ國道ヲ通ス、其名高シ、東吾妻山一名思山オモヒ、直立六千尺餘トス、信夫・耶麻ノ郡界ニ在リ、鏡ヶ城カミガキ、直立五千尺餘トス、信夫・安達・耶麻三郡ノ交界點ニ在リ、安積山一名額取山ヒコトケトス、安積郡ニ在リ、有名ノ古蹟ナリ、大白森オホシロ、直立五千尺餘トス、岩瀬・會津及磐城ノ西白河三郡ノ交界點ニ在リ、是ヨリ以南一大山彙ヲ爲ス、之ヲ甲子山ト名ツク、旭嶽アサガキ、直立六千尺餘、最高ナリ、此山脈ヲ踰フル道路數條アリ、左ニ之ヲ掲ク

第一 杭甲ノ陸道ハ、大平村伊達郡ヨリ刈安村羽前郡ニ

出ツ、福島ヨリ山形ニ通スル線路ニシテ、土工壯大、行旅其便ニ依ル、明治十八年改テ之ヲ國道線九三號トス

第二 板谷嶺ハ、李平村信夫郡ヨリ板谷村羽前郡ニ出ツ、福島ヨリ山形ニ通スル縣道ニシテ米澤道ト云フ

第三 國內ニ在テ山脈ノ東西相通スル山路數條アリ、愛コ之ヲ枚舉ス、其一土湯越ハ、土湯村信夫郡ヨリ橫向村麻郡ニ出ツ、文治五年、小山朝光等、安藤次ヲ以テ嚮導トシ、會津ノ方ニ向ヒ、土湯嵩取鳥越ヲ越フト即是

ナリ、取鳥越ハ北ニ通セシ古道ナリト云フ、其二母形峠ハ、一ニ石籠口ト云フ、石籠村安達郡ヨリ小田村麻郡ニ出ツ、道路甚險ナリ、戊辰ノ役、官軍ノ東征スルヤ、

一ニ出ツ、道路甚險ナリ、戊辰ノ役、官軍ノ東征スルヤ、

中山峠

湯本越

湯本村

本松ヲ登シテ仙臺ヲ伐ツト聲言シ、遂ニ道ヲ轉シ方成嶺ヲ踰ヘ、進シテ會津ニ向フト即是ナリ、蓋シ會人其險ヲ恃ミ、僅ニ兵數十ヲ備フ、故ニ官軍其處ヲ擄クヲ得タリト云フ、其三中山峠ハ、一ニ楊枝峠ト云フ、中山村安達郡ヨリ楊枝村麻郡ニ出ツ、本宮ヨリ若松ニ達スル縣道ナリ、其四板橋峠ハ、勢至堂村岩瀬郡ヨリ三代村安達郡ニ出ツ、白河磐城郡ヨリ若松ニ達スル縣道ナリ、會津ノ勢至堂口ト云フ、戊辰ノ役ニ有名ナリ、其五湯本越ハ、釋迦堂川ノ上谷、長沼村ヨリ、鶴沼川ノ上谷、湯本村ニ出ツ、里道ナリ

第四 眞名子越ハ、鶴沼川ノ上谷岩瀬郡ヲ沂リ、眞名子村白河郡ニ出ツ、此道岩代下野ニ通スル原街道ニ連接

三ノ小屋
山ノ

ス、慶長ノ役ニ、上杉景勝新ニ路ヲ開キ白坂ノ西ニ出
ツト、蓋此路線ナラシ、戊辰ノ役、會津ノ兵、湯本ヨリ原
街道ヲ襲ヒ來ル、敗テ火ヲ羽太・熊倉等ノ諸村ニ放テ
退シト、即是ナリ
中央脈ヨリ東西ニ支出スル岐脈甚多シ、左ニ其最ナル
者ヲ東西ニ分テ、北ヨリ順序シテ説叙セントス
先、東方ノ岐脈ヲ枚舉ス、其一、杭甲ノ南、日ノ峠ヨリ岐分
スル者ハ、家老山・三・森ヲ領シ、東走シテ伊達・信夫ノ郡界
ヲ劃シ、摺上川ニ至テ盡キ、川ヲ隔テ、大船山ニ對峙ス、
脈中ニ、小屋山ニ隧道アリ、中野新道ト稱ス、山形ニ通ス
ル國道線ナリ、其二、鐵城ヨリ岐出スル者ハ、二派ヲ爲ス、
一ハ東走シテ信夫・安達ノ郡界ヲ劃シ、更ニ數派ヲ分テ

安達太郎
山ノ

兩郡内ニ蟠結ス、一ハ南馳シ安達太郎山・和尙嶽ヲ領ス、
其餘派東南ニ斜伸シ、起伏參差名倉山ニ連リ、阿武隈河
邊ニ至リ盡ク、其三、母形峠ノ南ヨリ支出スル者ハ、石鑑
川ニ平行シテ南走シ、石鑑川ノ上谷ト五百川ノ上谷ト
ヲ相隔テ、五百川邊ニ至テ盡ク、其四、板橋峠ノ南ヨリ岐
分スル者ハ、斜ニ東南ニ向ヒ、釋迦堂川ノ二朝流江花川
間ニ蜿蜒シ、其二、水ノ深瀬ニ至テ盡ク、之ヲ隘フル山路
アリ、牧内村ヨリ長沼村ニ通ス、縣道ナリ、其五、三本木山
ヨリ支出スル者ハ、東走シテ磐城ノ國境ヲ劃シ、縣道ヲ
横截ス、白河街道是ナリ
西方ノ岐脈ハ皆甚長カラス、其一、東吾妻山ヨリ支出ス
ル者ハ、西南ニ向ヒ、其二、天狗角力取山ヨリ支分スル者

下野ノ關

中田山

押ノ關

國郡實志
山古城

桑折ヨリ白石川ノ上谷ニ通スル捷路ニシテ、里道ナ
 第三 國道ハ、貝田驛伊達郡ヨリ越河驛磐城郡ニ出ツ、下
 紐ノ關ノ古蹟アリ、東京ヨリ函館ニ至ル本道線ナリ
 岐山ノ著名ナル者ヲ半田山トス、萬歲樂ノ南ニ聳フ、有
 名ノ銀山ニシテ、山上ニ沼アリ、押ノ池ト云フ、又押ノ關
 ノ遺趾アリ、古昔官道之ヲ通ス、其東ニ岐出スル者ハ國
 道ヲ横截ス、之ヲ國見峠一ニ阿都賀志山ト名ツク、頂上
 ニ古城アリ、文治五年、源賴朝藤原泰衡ヲ伐ツ、泰衡厚樫
 山ニ城キ、庶兄國衡ヲシテ精兵二萬ニ將トシ、之ヲ守ラ
 シム、賴朝親カラ進メテ之ヲ攻ム、國衡走リ城陷キルト
 云フ、其遺跡今猶存ス

東賦

山古城

東賦ハ、阿武隈河ノ流出スル凹處ヲ狹クテ、東北賦ニ連
 リ、初、南ニ向ヒ次テ折レテ西ニ轉シ、磐城ノ國境ヲ跨シ、
 阿武隈河畔ニ至リ、高松山ニ盡ク、脈中ノ高山ヲ靈山ト
 ス、古城址アリ、嵯峨數十丈、著名ノ舊蹟ナリ、建武中、興源
 顯家州守ニ任シ、鎮守府大將軍ヲ兼テ、義長親王ヲ奉シ
 テ、靈山城ニ據ルト、即、是ナリ、此山以テ險フル通路數條
 アリ、左ニ枚舉ス
 第一 茂倉峠ハ、白根村伊達郡ヨリ丸森村磐城郡ニ出ツ、
 里道ナリ
 第二 中村街道ハ、靈山ヲ險フ、大石村伊達郡ヨリ玉野村
磐城郡ニ出ツ、福島ヨリ中村磐城郡ニ通スル縣道ナリ

第三 石田路ハ、靈山ノ南ヲ通ス、石田村伊達ヨリ玉野村郡城字ニ出ツ、里道ナリ

第四 川俣路ハ、川俣町伊達ヨリ二枚橋村郡城行ニ出ツ、里道ナリ

第五 山木屋路ハ、山木屋村安達ヨリ津島村郡城ニ出ツ、福島ヨリ磐城郡城葉郡ニ達スル直路ニシテ、里道ナリ

第六 百目木路ハ、百目木村安達ヨリ上移村郡城田ニ出ツ、里道ナリ

第七 小濱路ハ、稻澤村安達ヨリ松澤村郡城田ニ出ツ、二本松ヨリ三春ニ至ル別路ニシテ、里道ナリ

第八 三春街道ハ、糠澤村安達ヨリ土棚村郡城田ニ出ツ、本宮ヨリ三春ニ通スル縣道ニシテ、福島ヨリ平郡城ニ達スル直路トス

東脈ヨリ州内ニ支出スル岐脈一條アリ、初、西ニ向テ伊達・安達ノ郡界ヲ劃シ、次テ折レテ北ニ轉シ、岐シテ二條ト爲リ、其ニ蜿蜒シテ、阿武隈河ト廣瀬川トノ間ニ綿亘ス

北脈

北脈ハ、中央脈中、家形山郡城羽郡城本郡城州郡城ニ起リ、西走シテ羽前界ヲ擁シ、管王子山羽前國郡城ノ越郡城後郡城木郡城州郡城ニ終ル、其東部ハ、一大山彙ニシテ高山峻峯群峙シ、十數里ノ遠キニ亘リ、深山幽邃殆ソト人跡ヲ絶ツ、之ヲ惣シテ吾妻山ト云フ、

就中。西吾妻山五立尺六千最峻高ナリ、其西ニ連ナル高山
 ニ高會根・飯森等ナリ、此脈ヲ陰ヘテ羽前ニ通スル山徑
 ノ名アル者二條アルノミ、左ニ揚シ
 第一 檜原峠ハ、檜原村檜原村ヨリ綱木村綱木村ニ出ツ、
 若松ヨリ羽前ノ山形ニ通スル縣道ナリ、土俗之ヲ檜
 原口ト云フ、頂上ニ境塚アリ國境ヲ標ス、往時ハ關ヲ
 設ケ戍兵ヲ置テ往來ヲ察セシム、蘆名氏ノ時穴澤俊
 家ヲシテ之ヲ守ラシム、永祿七年、伊達輝宗其將石川
 但馬ヲシテ襲ハシム、俊家ノ孫・信德、此峠ヲ防キ擊テ
 但馬ヲ走ラス、其後伊達ノ兵ヲ受クルコト數回皆擊ツ
 テ之ヲ却ケ、天正十二年、遂ニ伊達氏ノ破ル所ト爲ル
 第二 大峠ハ、入田付村入田付村ヨリ鹽地平村鹽地平村ニ出

ヲ、里道ナリ、途路狹隘險惡牛馬通セズ
 北脈ヨリ支出シテ、州内ニ蟠結スル岐脈ノ著大ナル者
 三アリ、一ハ高會根山ヨリ岐分レ、南走シテ大鹽川大鹽川ノ
右 初ト長瀬川長瀬川ニ注ク者トシテ、分注隔シ、折レテ東ニ轉シ、碓
 夷嶽・磐梯山一名會津山五立尺五千ニ連ル、此岐脈ノ北部
 ナ横過スル山徑アリ、關峠ト云フ、檜原峠ニ連接スル縣
 道ナリ、一ハ濁川ト一ノ戸川トノ間ニ延伸ス、北方ヨリ
 相川村ニ通スル里道アリ之ヲ横過ス、一ハ一ノ戸川ト
 奥川トノ間ニ伸出ス之ヲ鳥居平ト云フ

西脈

西脈ハ、箕王子山ニ起リ、初斜ニ西南ニ亘テ越後ノ國境
 ナ書シ、高陽山高陽山ヲ領シ、阿賀河ノ凹口ヲ夾シテ更ニ隆起

ノ、蜿蜒南走シ、高陽山ニ至テ折レテ西ニ向ヒ、赤柴山ノ西ニ至テ再ヒ南ニ向ヒ、大島嶽ニ至テ山脈國境ヲ去テ越後ニ入リ、是ヨリ以南ハ只見川上流ノ河心ヲ以テ國境トス、此脈ヲ踰ヘテ越後ニ通スル山徑數條アリ、左ニ揭ク

第一 榑木峠ハ、阿賀河ノ右岸ニ在リ、元島村麻ヨリ

豊田村越後東ニ出ツ、里道ナリ

第二 島井峠ハ、阿賀河ノ左岸ニ在リ、群岡河ヨリ

島井越後東ニ出ツ、若松ヨリ新潟ニ往來スル本道

ニシテ縣道ナリ、土俗津川口ト稱ス、頗ル險阻ノ名アリシカ、近來開鑿ノ功ヲ竣ヘ、諸車ノ馳驅自由ナリ

第三 境澤峠一名八十里越ハ、叶津村津ヨリ吉平村

越後南ニ出ツ、道路極メテ峻シク牛馬通セス、風雨ノ時ハ通行シ難シ

第四 朝草峠一名六十里越ハ、田子倉村津ヨリ大白

河新田村越後南ニ出ツ、道路險惡一條ノ獸徑ニ過キ

ス、八十里越六十里越共ニ坂東路ヲ以テ稱ス、然レモ里

程正シク然ルコトアラス、山中徑路羊腸、行旅其險阻ニ

因ミ違キヲ思フ、因テ名ツクト云フ

岐脈ノ大ナル者ハ高陽山河ニ出テ東浦ヨリ支出

シ、初、東走シテ河沼・大沼ノ郡界ヲ畫シ、折レテ北ニ向ヒ、

阿賀河畔ニ迫マル之ヲ横過スル道路二條アリ、一ハ西

方村大ヨリ野澤河ニ通ス、里道ナリ、一ハ縣道ニ

シテ片門野澤ト野澤河トノ間ニ在リ、之ヲ東松峠ト云フ、

津川口險要ノ一ツ

南脈

中央氷界線ノ山脈、甲子山ノ南端三本館ニ於テ、折レテ西ニ轉シ、蜿蜒シテ下野・上野ノ國境ヲ劃シ、赤安山ニ至テ遂ニ上野ニ入ル、之ヲ南脈トス、峻嶽崇峯、連峙四時雪ヲ積ヤ殆ント行路ヲ絶ツ、脈中ノ高山ヲ男鹿嶽一里頂トス、水無川ノ水源ニ在リ、雜樹蒼鬱トシテ衆峯ニ秀ツ、荒海山トス其西ニ在リ、田代山トス又其西ニ在リ、山中ニ廣々原アリ、田畠ノ遺形アリト云フ、黒岩山・赤安山トス脈ノ西端ニ在リ、赤安山ヲ本州・兩野三國ノ交界點トス、此脈ヲ踰ルル山徑三條アリ

第一 大峠一名三斗小屋峠ハ、野原新田村津南郡ヨリ三斗

男鹿山

赤安山

斗小屋村

下野郡

ニ出ツ、道路頗ル險惡ナリ

第二

山王峠ハ、男鹿嶽ノ西ニ在リ、糸澤村津南郡ヨリ横川村下野郡

ニ出ツ、道路盤回深谷ニ臨ミ、或ハ巖ヲ鑿

リ或ハ棧ヲ架シテ通路トス、之ヲ日光街道ト稱ス、縣道ナリ、慶長ノ役ニ、上杉景勝其將大國但馬ニ兵二千ヲ付シ、峠ヲ下リ横川宿ヲ守ラシメ、以テ東軍ニ備フ

第三

小瀬峠ハ、赤安山ノ西ニシテ小瀬沼ノ東畔ニ在リ、杓枝岐村津南郡ヨリ戸倉村上野郡ニ出ツ、行程八里、其間人家ナク深山幽邃ノ地ニシテ、冬春ハ積雪行キ絶ツ

南脈亦數多ノ岐脈ヲ北發シ、州内ニ蟠結重疊ス、故ニ本

南脈亦數多ノ岐脈ヲ北發シ、州内ニ蟠結重疊ス、故ニ本

南脈亦數多ノ岐脈ヲ北發シ、州内ニ蟠結重疊ス、故ニ本

州ノ西南境ハ高山深谷甚多、秋暮ヨリ春晩ノ間ハ、積
雪土壤ヲ没シ人烟頗ル稀少ナリ、其最長大ナル者ハ、荒
海山ヨリ支出シテ初北ニ亘リ、大川ノ上谷ト伊南川ノ
上谷トチ分隔ス、之ヲ險フル山徑ノ著名ナル者ニアリ、
一チ中山峠トス、大川上谷ノ灘原村ヨリ、伊南上谷ノ八
郷村ニ通ス、一チ駒戸峠トス、大川上谷ノ静川村ヨリ、伊
南川上谷ノ青柳村ニ通ス、駒戸峠ノ北ニ至テ二派ニ分
レ、其ニ南會津・大沼ノ郡界ヲ劃ス、其一ハ東北ニ向ヒ、舟
鼻山・神籠嶽ヲ領シ、大川峠ニ至テ二派ニ岐ル、一ハ川ニ
沿フテ南走シ、一ハ北ニ亘リ北會津ト大沼トノ郡界ヲ
爲ス、之ヲ險ヘテ南會津郡ヨリ大沼郡ニ出ツル山徑ニ
繼アリ、一チ轉石峠トス、山南静川村ヨリ山北・大蘆村ニ

通ス、二チ氷玉峠トス、山南・大内村ヨリ山北・氷玉村ニ通
ス、縣道日光街道ナリ、此岐脈又二枝チ北走ス、其一枝ハ小博
士山・博士山・枇杷森・明神嶽ニ連リ、宮川ト灘谷川及只見
川ノ下流トノ間ニ蜿蜒シ、以テ二水チ分流シ、日橋川ト
只見川ト相滙スル處ニ至ル、之ヲ險ヘテ兩谷ノ交通ヲ
爲ス山徑四條アリ、一チ博士峠トス、宮川上谷ノ松坂村
ヨリ灘谷川上谷ノ小野川村ニ出ツ、二チ銀山峠トス、山
東・高田村ヨリ山西・灘谷村ニ通ス、三チ七折峠トス、山
氣多・宮村ヨリ山西・柳津村ニ通ス、以上三路山間ノ郵便
線ナリ、四チ權現堂坂トス、坂下驛ヨリ氣多・宮村ヲ經テ
片門驛ニ通ス、若松ヨリ越後ニ達スル縣道ナリ、一枝ハ
灘谷川ト野尻川トノ間ニ延伸シ、静倉山ニ連ル、之ヲ險

フル山徑二條アリ、一チ喰丸峠トス、澗谷川上谷ノ小野
 川村ヨリ野尻川上谷ノ喰丸村ニ通ス、二チ美女峠トス、
 只見川邊ノ宮下村ヨリ大谷川ヲ沂リ、靜倉山ノ西北麓
 ヲ經テ野尻川邊ノ野尻村ニ通ス、其二ハ西北ニ向ヒ、野
 尻川ト伊南川トノ間ニ亘リ、次チ折レテ西ニ轉シ、只見
 川ノ彎流スル大曲處ニ盡キ、其尾端越後境ノ朝野嶽ニ
 對峙ス、之ヲ踰フル山徑ヲ松坂峠トス、山南布澤村ヨリ
 山北山入村ニ通ス、南脈岐山ノ田代山ヨリ支出スル者
 ハ、湯岐川ト木賊澤トノ間ニ延伸ス、之ヲ踰フル山徑ヲ
 木賊峠トス、山東湯花村ヨリ山西宮里村ニ通ス、帝釋山
 ヨリ支分スル者ハ、木賊澤ト松枝岐川トノ間ニ伸出ス、
 之ヲ踰フル山徑二條アリ、一チ大峠トス、山東宮里村ニ

山西松枝岐村ニ通ス、二チ高畑峠トス、宮里村ヨリ大
 桃村ニ通ス、赤雲山ヨリ支分スル者ハ、南脈ノ最後ノ岐
 脈ニシテ、本州ノ西南隅ニ在テ只見川ト伊南川トノ間
 ニ重疊起伏ス、此脈初西北ニ向テ小瀬沼ノ北畔ヲ循シ
 リ、嶽、直立六千至テ折レ東北ニ轉シ、嶽、直立六千八
 千餘ス、脈中ノ高山ヲ、五峯アリ、南北ニ綿亘スル一八
 里餘、頂上ニハ四時雪アリ、半腹ヨリ上ハ草木生セズ、山
 腰黒檜・炬燵・雜樹繁茂ス、夏秋ノ際、殘雪奇狀ヲ呈シ、其形
 駒ニ似ル故ニ名ツク、其北方三、岩、直立六千六千餘ニ至テ、山脈
 三大派ヲ分テ、各派又細枝ヲ分テ、皆蜿蜒北走ス、其東派
 ハ三郷森ニ、中派ハ朝日山・赤松山ニ、西派ハ後倉山・横山
 ニ連ナル、嶺峻シク谷深ク、行路ヲ絶ツ

水論

灌漑ノ區劃

自然ノ形勢ニ從ヒ、全國ヲ大別シ、東西ノ二灌漑トス、本土ノ中央水界線タル山脈南北ニ亘リ、國中ヲ貫クヲ以テナリ、其東灌漑ハ大平洋ノ水經ニ屬ス、即チ阿武隈河ノ灌漑ノ一部ニシテ、伊達・信夫・安達ノ三郡、及安積・岩瀬二郡ノ大半ヲ領ス、古來所謂仙道ノ地是ナリ、其西灌漑ハ日本海ノ水經ニ屬ス、即チ阿賀河ノ上谷ニシテ、耶麻河沼・大沼・南北會津ノ五郡、及安積・岩瀬二郡ノ西境一小部ヲ領ス、古來所謂會津ノ地是ナリ

阿武隈河ノ灌漑

地勢總括

阿武隈河ノ灌漑ニ屬スル地ハ、北ヨリ西ノ方ハ大山脈ヲ據シ、南ヨリ東ノ方ハ山嶺或ハ河流ヲ以テ、磐城ト國境ヲ分ツ、河堤ノ地概平坦ニシテ、國道線之ヲ通貫シ、運輸ノ便アリ、通商農業亦開ク、殊ニ伊達・信夫・安達三郡ノ如キハ、養蠶ノ業甚盛ニシテ、東國ニ冠絶シ、人烟頗稠密ナリ

本河ノ水路

阿武隈河ハ、源チ甲子山中旭嶽ニ發シ、磐城ノ西白河郡ヲ濛洄シテ本州ニ來リ、北流シテ岩瀬・安積ノ二郡ト、磐城ノ石田・田村ノ二郡トノ境域ヲ劃ス、故ニ獨、左岸ノミヲ奉ク、右岸ハ磐城・先成・田村ヲ過ク、津波アリ成田渡ニ至リ、對岸龍崎村川石ニ通ス、河流此地ニ於

石川
須賀川

テ峻巖ニ支ヘラレ大段落ヲ爲ス之ヲ石川灘又龍崎灘
ト名ツク次テ須賀川千八百約五ノ北ニ至リ釋迦堂川
流ヲ受ク須賀川ハ國道ノ驛次ニシテ人家稠密福島以
南第一ノ市街ナリ郡役所^{岩瀬}病院産馬會社等アリ古
城アリ守屋館ト號シ二階堂氏世々之ニ居レリ天正十
七年伊達政宗攻メテ之ヲ拔キ石川昭光ヲシテ守ラシ
ム翌年秀吉政宗ノ侵地會津仙道ヲ収メ浦生氏郷ヲ封
スルコ及ソテ本城磐城田村郡守山城ニ隸スト云フ次
テ滑川村ニ至リ滑川^{左朝}ヲ受ク次テ笹原村ニ至リ笹
原川^{左朝}ヲ合ス次テ郡山千四百約五ニ至リ大師川ヲ容
ル郡山ハ國道ノ驛市ニシテ人戶楯比シ警察署郡役所
安積^{安積}鐵道停車場アリ古城アリ郡山城ト稱ス戰國ノ時

郡山

桑野村

福原村

八丁ノ目

高倉村

田村氏ニ隸ス天正五年會津ノ兵本城ヲ略ス田村清顯
兵ヲ發シテ迎戰シ大ニ之ニ克ツ十六年二階堂佐竹結
城蘆名ノ諸氏兵ヲ連テ來リ攻ム城將郡山俊景固ク拒
ク伊達政宗警ヲ聞キ來リ援ケ城外ニ戰フ十八日遂
ニ成テ行フト云フ街西ハ往時ハ茫漠タル荒野ニシテ
大槻原ト唱フ明治六年開墾ノ業ヲ起シ堤ヲ築キ水ヲ
疏シ艸莽沮洳忽テ變シテ一聚落ヲ成ス之ヲ桑野村ト
云フ郡役所^{安積}ノ在ル處ナリ次テ福原村千六百約一
過ク津波アリ福原渡^{水幅}十五間ト云フ北小泉村^{村部}田
通ス其下ニ於テ藤田川^{左朝}ヲ合シ八丁ノ目村ヲ過ク津
渡アリ市坪渡^{水幅}十八間ト云フ次テ梅澤村ヲ過ク又津波
アリ菅沼渡^{水幅}三ト云フ次テ高倉村ヲ過ク國道ノ驛

本宮村

新田村

廣田村

二本松町

次ナリ、此ニ至テ五百川左朝ナ併シ、國境ヲ去テ安達郡
 コ入り郡ヲ兩斷ス、因テ東西安達ノ稱アリ、本宮村約八口
 千四ニ至リ安達太郎川左朝ヲ受シ、本宮亦國道ノ驛次
 ニシテ、東阿武隈河ヲ帶ヒ、西北小山脈ヲ負フ、公立病院、
 牧牛會社アリ、稻繁昌ナリ、津渡アリ本宮下、渡十幅六ト
 云フ、對岸高木村ニ達ス、次テ杉田村ニ至リ杉田川ヲ受
 シ、南杉田村ニ津渡アリ菅田、渡十幅四ト云フ、對岸和田
 村千人口約一ニ達ス、次テ成田村千人口約一ヲ濶濶シ、次テ
 二本松町千人口約七ノ東ヲ過ル、國道ノ驛次ニシテ丹羽
 氏ノ舊城邑ナリ、郡役所安達、學校、製絲場アリ、市中一小
 山ヲ以テ街道ヲ横截ス、之ヲ觀音山ト云フ、山脈西ニ延
 ヒテ城山トナル、山上ニ城址アリ、今製絲場トス、興國四

年、足利尊氏、島山高國ヲ探題トシ、安達郷ニ居シ、其曾孫、
 滿泰、應永二十年、初テ本城ヲ築キ二本松氏ト稱ス、天正
 十三年、伊達輝宗、政宗本城ヲ攻メ、既ニ小濱城ヲ取ル、城
 主義繼大ニ懼レ伴テ降リ、輝宗ヲ誘殺シ自殺ス、政宗怒
 リ大兵ヲ發シ來リ圍ミテ糧道ヲ絶ツ、城中飢困シ遂ニ
 牙城ヲ燒キ皆會津ニ走リ城陷サル、政宗其將伊達成實
 ナ留テ守ラシム、蒲生氏ニ至リ、其臣町野幸知ヲ置ク、上
 杉氏ノ時、其將永野俊政ヲ置ク、關原役ノ後、徳川氏初、松
 下重總ヲ封シ、後丹羽光重ヲ封シ世襲セシム、戊辰ノ役
 ニ、會津ニ黨ス、七月二十九日、官軍城ヲ攻ム、城主米澤ニ
 走リ城陷フル、次テ湯川左朝ヲ受ケ、方向ヲ東ニ轉シテ
 國道ニ遠カリ、移川右朝ヲ會スルニ及ンテ舊方向ニ復

津渡

飯野村

松川村

下川崎村ト下太田村トノ間ヲ通ス、二村間ニ津渡アリ新舟渡水幅三八間ト云フ、次テ松川左朝ヲ受ケ、暫ラク安達・伊達及信夫・伊達ノ郡界ヲ劃シ、其間飯野村千八百約一ヲ過ク、津渡アリ西飯野渡水幅三ト云フ、西飯野村ヨリ下川崎村ニ通ス、次テ左岸ニ松川村千八百約二ヲ存ス、國道ノ驛次ナリ、次テ信夫郡ニ入テ其東部ヲ貫流シ、漸ク國道ニ近ツキ、鳥谷野・小倉寺ノ二村間ヲ過ク、津渡アリ鳥谷野渡水幅八ト云フ、次テ福島ノ南ニ至リ洲川左朝ヲ受ク、

福島ハ、福島縣廳水州全土及磐城ノ在ル處ニシテ、戶數一千八百四十六、人口七千八百八十四、明治以來規摹一新シ、市街ノ繁盛ナル東京以北ノ一都會ナリ、東ハ阿武

隈河ニ沿ヒ椿館山ト相對ス、津渡アリ渡利渡水幅八ト云フ、對岸渡利村千五百約一ニ通ス、南ニ洲川ヲ帶テ信夫橋長三百零八尺間之ニ架ス、北ニ信夫山アリ平野ニ隆起シ、山上茂松森鬱公園トス、市街國道ノ岐分點ニ位ス、岐路新舊二アリ、舊道ヲ縣道トシ新道ヲ國道トス、共ニ山形縣ニ通ス、裁判所・警察署・郡役所信夫・電信分局・師範學校・醫學校・病院等アリ、城址アリ阿武隈河ニ臨ム、慶長ノ役ニ、上杉景勝・本庄繁長ヲシテ福島城ヲ守ラシム、伊達政宗之ヲ攻メ克マスト、是レ福島城ノ字、史乘ニ顯ル、始テ、徳川氏初、本多政長ヲ封シ、後、板倉重寛ヲ封ス、戊辰ノ役、官軍二本松城ヲ取ルニ及ヒ、城主板倉勝尙城ヲ棄テ逃ルト云フ

福島町 桑折村 大木戸村

福島町ヲ過キ五十邊村ニ至テ松川左朝ヲ容ル、又津渡アリ岡部村千人口約一ニ通ス、次テ鎌田村千人口約一ヲ過キ、瀬上村千人口約一ニ至テ摺上川ヲ合ス、此地國道ノ驛次ニシテ十字橋ニ臨ミ、西摺上川ニ沂ル者ハ羽前山形ニ通シ、東大舟場渡水幅八ヲ渡ル者ハ保原千人口約三ヲ歴テ磐城中村ニ通ス、共ニ縣道ナリ、保原ハ曠野中ニアル市街ニシテ、人烟稠密、郡役所伊達アリ、蠶桑ニ饒カナリ、此ニ於テ河流伊達郡ニ入り、漆洞シテ、漸ク東ニ向ヒ桑折村千人口約二ヲ過ク、國道ノ驛次ニシテ家屋櫛比ス、北ニ小坂峠アリ山路十八曲頗ル峻險ナリ、次テ徳江村ヲ過ク、津渡アリ徳江渡水幅一ト云フ、北ニ藤田村約一口千ニアリ國道ノ驛次ナリ、又其東北ニ大木戸村アリ、伊

梁川村

達ノ大木戸ト稱スルハ是ナリ、次テ梁川村千人口約四ニ至テ廣瀬川右朝ヲ受ク、梁川ハ廣瀬川ニ跨ル市街ニシテ、人家櫛比シ殷富ノ名アリ、古城アリ梁川城ト名ツク、慶長ノ役ニ、上杉氏其將須田大炊ヲシテ之ヲ守ラシムト云フ、次テ本州ヲ去リ磐城伊具郡ニ入り、同國亘理郡荒濱村ニ至リ海ニ入ル、本州ヲ流ル、水路大約二十七里餘、濶大約一丁四十間、福島ヨリ海ニ至ル大約二十三里、漕舟ヲ通ス源委磐城驛左朝流

限戸川

第一 釋迦堂川ハ、二水ヨリ成ル、一ヲ限戸川ト云ヒ、源

廣戸川

大里村

江ノ橋

須賀川

廣戸村權太倉山ニ發シ、東流シテ磐城西白河郡ノ北
 境ヲ回流シ、北ニ向ヒ本州ニ來ル、一チ廣戸川ト云フ、源
 ナ牧ノ内村高矢倉山ニ發シ、山間ヲ東流シ、大里村一人口約
 ナ過ク、山間ノ繁村ナリ、次チ柿ノ内村ニ至テ二水相會シ
 釋迦堂川トナリ、江、花川ヲ合ス、江、花川ハ源ヲ勢至堂村
 八郎山ニ發シ、板橋峠ヲ開キ、縣道ニ沿フテ東流シ、勢至
 堂・江、花長沼千人口約一チ過ク、三地共ニ縣道ノ驛次ナリ、
 次チ矢野村ニ至テ釋迦堂川ニ會ス、釋迦堂川此ヨリ
 東北ニ向ツテ濼洞シ、須賀川驛ノ北ニ至テ國道ヲ横截
 ス、橋アリ、中宿橋ニ長四十五尺幅ト云フ、圮橋ナリ、次チ本河
 ニ朝ス、水路約十二里餘
 第二 滑川ハ、源ヲ守屋村金ハミ山ニ發シ、東流シテ仁

仁井田村

仁井田村千人口約一チ過キ、滑川村ニ至リ國道ヲ横截ス、橋
 アリ、滑川橋ニ長三十四尺幅ト云フ、圮橋ナリ、次チ本河ニ會ス、
 水路約六里

安積郡

第三 笹原川ハ、源ヲ下守屋村朽窪山ニ發シ、東流シテ
 日出山村ニ至リ、國道ヲ横截ス、笹原橋又耳語橋ニ長十二
 尺幅ト云フ、圮橋ナリ、次チ本河ニ歸ス、水路約五里
 第四 安積川ハ、源ヲ西鬼ヶ城山ニ發シ、東流シテ安積郡
 ノ中央ヲ貫キ、片平村ヲ過ク、古城アリ、片平城ト云フ、天
 正四年、伊達大和之ヲ守ル、四本松ノ城主大内氏、三春ノ
 城主田村氏等、兵ヲ連テ來リ攻ム、城主會津ニ走リ、城陷
 ル、後、大内氏之ニ據ル、幾ナラヌ伊達氏ニ降ル、天正十六
 年、會津・須賀川ノ兵、城主ノ不在ヲ窺ヒ攻メテ之ヲ拔ク

ト云フ、次テ富田村一千口約ヲ過キ、久保田村ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ、安積橋、幅長二十三間ト云フ、板橋ナリ、次テ本河ニ合ス、水路約六里

安積沼ノ古蹟

第五 藤田川ハ、源ヲ河内村額取山ニ發シ、安積郡ノ北部ヲ東流シ、日和田村ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ、藤田橋、幅長八間ト云フ、圮橋ナリ、安積沼ノ古蹟ハ、村ノ西方ニ在リ、今ハ水涸レ水田トナリ、人家遠近ニ點在スト、驛、四圍岡陵ヲ負ヒ、猶沼蹟タルヲ認ムヘシ、次テ八才目村ニ至リ、本河ニ會ス、水路約六里

第六 五百川ハ、源ヲ中山村西大森山ニ發シ、中山峠ヲ開ク、縣道ナリ、河洗縣道ニ沿フテ東流シ、安積、安達ノ郡界ヲ劃シ、玉川村ニ至リ、石楚川ヲ領ス、石楚川ハ源ヲ

石楚川

明神山ニ發シ、山間ヲ南流シテ左右ヨリ來ル溪水ヲ集ム、其一水、母形峠ヲ開ク、土俗會津ノ石楚口ト稱スルハ是ナリ、二川合スル後、猶郡界ヲ持續シ、仁井田村ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ、五百川橋、幅長十七間、一尺幅ト云フ、圮橋ナリ、同村ニ於テ本河ニ合ス、水路約七里

玉井村

本宮村

第七 安達太郎川ハ、源ヲ箕輪村和尙嶽ニ發シ、東南ニ向ツテ流レ、玉井村千八百約ニテ過ク、古城アリ、玉井城ト云フ、戰國ノ時、本宮城ト共ニ本國諸氏ノ争フ所ト爲レリ、次テ本宮村ニ至リ、本河ニ注ク、水路約二里、本宮ハ國道ニ臨ム、驛次ナリ、古城アリ、本宮城ト云フ

第八 杉田川ハ、源ヲ安達太郎山ニ發シ、初、東南ニ向ヒ、其南溪ヨリ出ツル諸水ヲ集メ、折レテ東ニ轉シ、二本松

松川村

本宮ノ中間杉田村ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ杉田橋
 長三十四間ト云フ、圮橋ナリ、次テ本河ニ入ル、水路約二里
 第九 油井川ハ、上流ヲ湯川ト云フ、源ヲ亦安達太郎山
 ニ發シ、東流シテ油井村ニ至リ、本河ニ合ス、水路約四里
 第十 松川ハ、源ヲ水原村赤倉山ニ發シ、信夫郡ノ南境
 ナ東流シ、土湯越ニ連ナル山徑ヲ開キ、松川村千人口約二
 ニ至リ國道ヲ横截ス、橋アリ松川橋長十四間三尺ト云フ、圮
 橋ナリ、次テ沼袋村ニ至リ、本河ニ合ス、水路約四里
 第十一 濁川ハ、源ヲ山田村鍋山ニ發シ、東北ニ向テ流
 レ、鳥谷野村ニ至テ本河ニ入ル、水路二里
 第十二 須川ハ、源ヲ櫻本村吾妻富士山ニ發シ、同村ニ
 於テ白津川同山路約二里ニ合シ、東流シテ上野寺村ニ至

荒川

松川ノ古

リ天戸川水路約三里ニ至リ、仁井田村ニ至テ
 荒川土湯村水路約五里ニ合シ、荒川ハ中央山脈中ニ土湯
 峠ヲ開キ、土湯村ヲ過シ、温泉アリ、中湯ト云フ、諸川相會
 シテ河幅濶大トナリ、福島町ノ南ヲ過キ、本河ニ歸ス、福
 島ニ橋アリ國道ヲ通ス、信夫橋長一四八間ト云フ、板橋
 ナリ
 第十三 松川ハ、源ヲ羽前國南置賜郡高倉山ノ麓ニ發
 シ、山間ヲ東流シ、板谷峠ヲ開キ、平野ニ出テ、國道二條
 ナ横截ス、共ニ橋アリ、其一、山形街道ニ架スル者ヲ松川
 橋長七十四間ト云フ、圮橋ナリ、其二、仙臺街道ニ架スル者
 モ亦松川橋長二十四間ト云フ、板橋ナリ、次テ本河ニ注ク、
 水路約八里、河邊ニ古戰場アリ、慶長六年、伊達政宗福島

ナ攻ム、城主本庄繁長等誓ヲ聞キ、城ヲ出テ河畔ニ陣シ、
 政宗ノ河ヲ渡ルニ乗シ、擊ツテ大ニ之ヲ破ルト即是ナ
 リ
 第十四 摺上川ハ、源ヲ杭甲嶽ニ發シ、初東北ニ向ツテ
 山間ヲ濛洄シ、羽前境ノ大山脈ヨリ出ツル諸水ヲ集メ、
 彎曲シテ南ニ向ヒ茂庭村千人約一ヲ過ク、山間ノ驛市
 ナリ、次テ信夫・伊達ノ郡界ヲ畫シ、上飯坂村千人約二
 至リ赤川ヲ受ク、温泉場アリ川ヲ隔テ、湯野村ト相對
 シ、其間架スルニ釣橋ヲ以テス、之ヲ十綱橋幅長二四八尺
 ト云フ、柱脚ヲ用ヒス銅網之ヲ繫ク、其西ニ大鳥城址ア
 リ、元曆年中、佐藤莊司ノ據ル處ニシテ今公園トス、山上
 一望信夫郡ノ野歷々指點スヘシ、其下ニ於テ小川ヲ合

茂庭村

上飯坂村

十綱橋

大鳥城址

小川ハ源ヲ日峠ニ發シ、二小屋ヲ過ク、隧道アリ即山
 形ニ通スル國道線九號三十三ニシテ、土工壯大、行旅其便ニ
 依ル、之ヲ中野新道ト稱ス、河流國道線ヲ溯テ東流シ、遂
 ニ摺上川ニ入ル、摺上川瀨、上村ニ至リ、仙臺街道六號第
 ナ横截ス、橋アリ幸橋幅長三十四間ト云フ、板橋ナリ、次テ本
 河ニ朝ス、水路約九里、瀨、上村ヨリ岐路ヲ分テ、此河谷ヲ
 沂リ湯原峠ヲ踰ヘテ、山形ニ達スル縣道アリ、慶長ノ役
 ニ、伊達政宗福島城ヲ攻メ、松川ニ戰ヒ敗ル、梁川城主須
 田大炊馨ヲ聞キ兵ヲ率ヒ來テ福島城ヲ援ケ其退路ヲ
 絶シ、政宗進退維谷マリ、摺上ノ山路ヨリ白石城ニ走ル
 ト云フ即此道ナリ

小川
二小屋

政宗ノ走

右朝流

小瀨村
小瀨城
針道村
小手森城
百目木城

右朝流ノ本州ニ屬スル者二川ニ過キス、蓋右岸ノ地ハ多ク磐城ニ編入スルヲ以テナリ、左ニ其二川ヲ揚シ第一移川ハ源ヲ磐城田村郡上移村横道ニ發シ、其上流ハ田村郡ニ在テ、移嶽ノ北麓ヲ西流シ、折レテ北ニ向ヒ本州ニ入テ、東安達ノ中央ヲ貫流シ、小瀨村千三百ノ東ヲ過ク、古城アリ、小瀨城又四本松城ト稱シ、大内氏之ヲ據リ、本州ノ諸氏ト相呑噬ス、天正ノ末、伊達政宗之ヲ降シ、二本松ヲ攻ムルノ據點トス、次テ下太田村約一千三百ニ至リ、小瀨川ヲ受ク、小瀨川源ヲ栲人山ニ發シ、針道村千五百約一ヲ過ク、古城アリ、小手森城ト云フ、西流シテ山間ノ諸溪水ヲ集ム、其一水、深川ハ、百目木村ヲ過ク、古城アリ、百目木城ト云フ、石川彈正之ヲ守リ、田村氏ニ

川俣村

隸ス、天正年中、小瀨城主大内氏之ヲ攻メテ克タス、移川・小瀨川相會スル後、直ニ本河ニ入ル、水路約八里第二廣瀨川ハ、川ヲ朽人山ニ發シ、北流シテ川俣村口約三千ヲ過ク、山間ノ市場ニシテ人煙稠密、紡織所・製絲所アリ、次テ石田村千七百約一ヲ過ク、磐城ニ通スル山徑ノ出口ニ臨ム、次テ大白村千七百約一ヲ過ク、靈山越ノ出口ヲ扼ス、次テ掛田川ヲ受ク、其水邊ニ掛田村千七百約一アリ、山間ノ小聚落ニ過キサルモ頗ル製絲ノ名アリ、次テ桑川ニ至リ、縣道ヲ横截ス、橋アリ、廣瀨橋ニ長三十尺、同橋ト云フ、板橋ナリ、次テ本河ニ注ク、水路約九里

阿賀河ノ灌域
地勢總括

阿賀河ノ流域ハ、古來會津ト總稱シ、峻峯四塞、別天地ヲ
 爲スモン、如シ、其地阿賀河ノ上谷ニシテ、道路崎嶇、運
 搬通商ニ便ナラス、然レモ猪苗代ノ巨浸ハ、湯澤、碧ヲ張
 ラシ、又山間ノ諸水相會シテ阿賀河トナリ、磐環西流シ、
 稍遑速ノ利アリ、阿賀河、日橋、只見ノ二川ヨリ成ル、日橋
 川ハ猪苗代湖ノ瀆口ニシテ、兩岸開濶、村落密布シ、米穀
 饒多ナリ、只見川ニ屬スル地及南境ハ、重巒連澤多シ、秋
 暮ヨリ春曉ノ間ハ、積雪土壤ヲ埋没シ、人烟稀少ナリ、左
 ニ此二川及其潮流ヲ説叙セントス

其一 日橋川ノ水路附猪苗代湖及
注ノ諸川

日橋川ハ、源ヲ猪苗代湖ニ發ス、猪苗代湖ハ國ノ中央ニ
 在テ、耶麻會津・安積ノ三郡ニ亘リ、廣三里十一丁、袤二里

五丁、周圍十三里十九丁、汪洋トシテ海ノ如シ、海面ヲ拔
 ク一千八百尺、淡水湖ナリ、天晴風静ノ日ハ、磐梯ノ山影
 湖心ニ映シ、水色山光國中第一ノ勝地トス、白鳥・馬嶋多
 シ來リ浴シ、又鯉鮒ヲ産シ漁獵ノ利アリ、湖ノ東畔山濱
 村ニ近來鑿渠ヲ開キ田子沼ニ通シ、安積郡ノ山脈ヲ貫
 テ貫テ穿テ、水ヲ引テ阿武隈河左岸ノ曠野ニ灌溉スト
 云フ、世ニ有名ナル猪苗代湖疏水ノ土工是ナリ、湖上船
 ナ浮ヘ相往來ス、就中西畔、戸口村ヨリ東畔平瀨村ニ往
 復スル者ハ涼船ニシテ、二本松街道ノ旅客皆之ニ由ル、
 湖ノ周圍大山環列シ、之ヨリ發スル諸川ハ悉ク湖ニ向
 ヲテ流注ス、皆濊湖ニ過キス、長瀬川、稍大ナリトス、左
 ニ其諸川ヲ枚舉セントス

第一 小黒川ハ細流ナリ、源ナ磐梯山ニ發シ、南流シテ
 猪苗代町千九百約一ヲ過ク、東北郡ノ一都邑ナリ、市街西
 北ハ磐梯山ヲ帶ヒ、南ハ湖水ニ面ス、保科氏ノ舊壘城ニ
 シテ、廟宇宏壯ナリ、モ、戊辰ノ役ニ、兵火ニ罹リ、今ハ只
 累々巨碑ヲ存スルノミ、城アリ、龜城ト云フ、若松城シテ之
 名ニ對シテ、牙城ハ、砦ノ山趾ニ據ル、若松城ノ支城ナリ、
 古時、佐原大炊助經連之ニ居リ、世々此處ニ住シ、耶麻郡
 半郡ヲ食ム、永正八年、猪苗代ヨリ黒川若松ノヲ襲ヒシ
 アリ、後、華名氏ニ隸スル、臣ノ如シ、其裔、正盛國ニ至
 リ、華名氏ニ叛キ、伊達氏ニ通シ、天正十七年、摺上ニ又、
 ノ一戰ニ、華名累代ノ宗社ヲ覆ヘシ、其身、伊達氏ニ屬ス、
 明年、秀吉、伊達氏舊食ノ地ヲ削リ、蒲生氏郷ヲ本州ニ封

セシ時、氏郷、其臣町野左近ヲ置ク、上杉氏ノ時、今井源左
 衛門ヲ置ク、加藤氏ノ時、堀部主膳ヲ置ク、保科氏ニ至リ、
 尙城代ヲ置テ守ラシムル、舊ノ如シ、戊辰ノ役、會兵ノ
 壯成峠ト云フ、口ヲ守ル者先、敗ル、官軍追撃シ、進ンテ本城
 ニ薄ル、會兵拒シ能ハス、城ヲ火キテ走ル、今ハ唯、墨石塹
 濠ヲ存スルノミ、次テ二派ニ分レ、米田ヲ養ヒ、終ニ堅田
 村ニ至リ、合シテ湖ニ入ル、水路約三里十八丁
 第二 長瀬川ハ、最大ナリ、水源ニアリ、一ハ、檜原峠ニ發
 シ、南流シテ一山徑ヲ開ク、之ヲ雄子澤通ト名ツケ、猪苗
 代ヨリ米澤羽前ニ通スル小徑ナレド、常ニ往來スル
 者アリ、此溪水、檜原村ヲ過ク、村ノ西北三丁ニ館迹アリ、
 戸山城ト名ツク、土壇空隍ノ蹟ヲ存ス、文明十八年、山賊

磐梯山
 猪苗代

嘯聚シ行路ヲ却カス、領主韋名盛高、其將・穴澤俊家ニ命
シ之ヲ誅セシメ、俊家ヲ此地ニ置テ出羽國ノ塞拒トス、
俊家乃此館ヲ築テ移住ス、其孫信徳ニ至リ、永祿七年、伊
達輝宗其將石川但馬ニ命シ、兵二千五百ヲ率ヒテ此館
ヲ攻メシム、信徳之ヲ聞キ、國境檜原峠ニ出テ邀撃テ大
ニ之ヲ破ル、其後、伊達氏ノ兵ヲ受クルヲ數回、信徳擊テ
之ヲ却リ、天正十二年、穴澤ノ支族ニ伊達氏ニ應スル者
アリ、伊達氏ノ兵ヲ誘ヒ信徳父子ヲ欺キ討ツ、一族悉ク
之ニ死シ館廢ル、保科正之封ニ就キシ時、穴澤ノ子孫ヲ
祿シテ此地ニ居ラシメ、村ノ北端ニ關ヲ設ケ、戍兵ヲ置
キ之ニ屬セシメ、以テ往來ヲ察シ境ヲ守ラシムト云フ、
次テ雄國沼ヨリ出ツル溪水ヲ合シ、東ニ向フ、一ハ中吾

小田ノ館

酒物ノ館

金曲ノ館

妻山ニ發ス、之ヲ中津川ト云フ、二水合シテ山間ヲ曲流
シ、酸川ヲ容ル、其漑漑近傍小田ト云フ地ニ館迹アリ、康
曆ノ頃、佐藤次郎左衛門政泰ナル者之ニ居リ、音高城ト
號ス、次テ堀切ト云フ地ヲ過ク、館迹アリ西ハ此川ノ急
流ニ臨ミ要害トス、天正ノ頃、猪苗代ノ臣堀切内匠ナル
者之ニ居ル、東ノ方ニ隍形ノ存スルモノアリ、次テ下館
ト云フ地ヲ過ク、亦館迹アリ、小槍山次郎左衛門ナル者
之ニ居ル、次テ白津ト云フ地ノ西ヲ過ク、其東北・根岸山
ニ八手山館迹アリ、三浦經連カ舊墟ナリト云フ、次テ金
田村ニ至リ縣道ヲ横截ス、橋アリ小金橋、長三十間幅ト
云フ、木橋ナリ、村ノ南金曲ト云フ地ニ館迹アリ、隍ノ形
存セリ、永亨ノ頃、岡部山城ナル者之ニ居リ、天正中、猪苗

代ノ城主・猪苗代盛國、其將大堀土佐・秋屋平右衛門ヲ置
 ナ壺下口ヲ守ラシム、當時、盛國ノ子盛胤父ノ追フ所ト
 爲リ、安積郡横澤ニ寓シ、竊ニ恢復ヲ謀ル、天正十六年、盛
 胤小艇ニ乗テ湖上ヲ涉リ、不意ニ此館ヲ急襲ス、大堀秋
 屋等壘ヲ棄テ走ル、盛胤館ニ入テ固ク保守ス、盛國兵ヲ
 遣リ之ヲ攻ム、盛胤之中途ニ邀撃ヲテ却ク、盛國自ラ
 衆ヲ率テ金曲ニ次ス、猪苗代寺院ノ僧爲ニ和親ヲ謀リ、
 盛胤横澤ニ歸ル、其後館ヲ廢シ、菜園トナル、又村ノ東南
 五丁ニ土佐屋敷ト字スル田地アリ、大堀土佐ノ舊墟ナ
 リト云フ、次テ西南ニ向ヒ湖ニ注ク、水路約十里十八丁
 潤三十間

第三 舟津川ハ、安積郡ニ在リ、源ヲ黒塚山ニ發シ、板橋

畔ヲ開ク、縣道白河ナリ、北流シテ三代村ヲ過ク、驛次ナ
 リ、次テ舟津村ニ至テ湖ニ注ク、水路約四里

第四 菅川ハ、源ヲ布引山ニ發シ、北流シテ福良村約八口
 百六十ヲ過ク、縣道白河ノ驛次ナリ、其北ニ至テ湖ニ注ク、
 水路約三里

第五 常夏川、亦源ヲ布引山ニ發シ、前者ニ平行シテ北
 流シ、赤津村八口約ヲ過ク、縣道ノ驛次ナリ、其北ニ至テ
 湖ニ注ク、水路約三里

第六 原川、亦源ヲ布引山ニ發シ、北流シテ原村ヲ過ク、
 縣道ノ驛次ナリ、次テ折レテ東ニ向ヒ湖ニ注ク、水路約
 七里潤七間

最後ノ四水ハ皆相平行シ、布引山ノ岐山其間ニ支出シ

又勢至堂其山川ヲ横過ス、途中昇降ノ多キ想フヘキナ
 リ
 湖ノ西畔戸口村ニ漏口アリ、會津ノ勢田ト稱ス、蓋シ琵琶
 湖ノ勢田ニ於ケルト其趣ヲ同フスレハナリ、橋アリ
 石橋ニシテ十六橋ト稱ス、穹洞十六アルヲ以テ名ツク、
 各穹洞ニ開テ設ケ、以テ河水ノ量ヲ加減スルニ供スト
 云フ、此ヨリ流出スルヲ日橋川トス、此川往時ハ、此ノ如
 キ設ナク急湍ニシテ、大橋ヲ架スヘキ便ナケレハ中流
 ニ塚ノ如ク石ヲ累築キ、其間ニ丸木ヲ並架シテ橋トシ、
 相傳テ空海ノ作ト云フ、天明六年、之ヲ改築シテ石橋ト
 ス、長四十八間、橋脚總テ二十二基、二十三節アリ、勾欄ニ

十六橋

至ルマテ皆石ヲ以テ造ル、此橋ハ舊、若松ヨリ二本松・猪
 苗代ニ往來スル裏街道ニシテ行旅殊ニ多シ、戊辰ノ役、
 石鎚口ノ會兵先破レ、官軍急追會兵橋ヲ撤スルノ有餘
 ナ得ス、僅ニ一節ヲ破毀シ其進路ヲ絶ツ、官軍直ニ修繕
 シテ之ヲ渡リ、長驅シテ若松ニ薄ル、後、福島縣改造シテ
 穹橋トシ縣道ヲ通ス、此川、最初暫ラク北ニ流レ、漸ク西
 ニ向ヒ山間ヲ曲折蜿蜒シテ、耶麻・北會津ノ郡界ヲ劃シ、
 大寺村ヲ過ク、舊本道ニ若松ヨリ二本松ノ驛次ナリ、橋ア
 リ日橋、長三十六間ト云フ、此邊猶奔湍ニシテ橋柱ヲ建ツ
 ヘカラス、故ニ兩岸ニ石ヲ積ミ、梁ヲ之ニ托シテ河上ニ
 挺出セシメ、又中流ニ大石アリ、之ヲ利用シテ許多ノ柱
 ナ其上ニ建テ、梁ヲ支持セシム、奇橋ナリ、天正中、磨上

大寺村
日橋

原上原

原ノ戰ニ、伊達氏ノ軍早ク、此橋ヲ撤セシテ以テ、葦名氏ノ軍敗レテ之ヲ渡ラントシテ走リ來リ溺死スル者算ナシト云フ、村領ニ館迹三アリ、皆葦名氏臣ノ舊墟ナリ、村ノ東ニ原野アリ、磨上原ト名ツク、方二里、天正十七年、伊達政宗本州ニ侵入シ、猪苗代盛國ヲ先鋒トシ、葦名義廣ヲ黒川城今ノ若ニ攻ム、義廣警ヲ聞キ其軍ノ未ダ整ハサルニ乘シ擊ツテ之ヲ破ラントシ、城ヲ出テ、此原野ニ會戰シ、終ニ大ニ敗レ累代ノ宗社一朝ニシテ亡フト、其有名ナル古戰場是ナリ、次テ大谷村ニ至リ、大谷川右朝ヲ容レ、駒形山ノ南麓ヲ流レ、鹽川村人口約一ニ至リ、大鹽川ヲ受ク、鹽川ハ縣道ノ驛次ニシテ、市街河ニ傍ヘ運漕ノ便アリ、橋アリ南大橋長二同三尺間ト云フ、館跡

鹽川村

楠木城

アリ今ノ古町ノ地是ナリ、葦名直盛ノ臣、濱崎主馬之ヲ築キ柏木城ト號ス、長祿ノ頃、七宮憲勝其子憲俊之ニ居ル、戊辰ノ役ニ、上杉氏既ニ歸順シ、兵ヲ此地ヨリ若松ニ進ム、城中其旗章ヲ望ミ降ヲ乞フニ至ルト云フ、次テ三川村ニ至リ、湯川左朝ヲ合シ、立川村ニ至リ、大川左朝ヲ併セ、河幅頓ニ増シ沙磧積堆ス、此邊兩岸平坦開濶シ、道路縱横ス、青木村ニ船橋長一四同三尺間アリ、青津村ニ至リ宮川左朝押切川右朝ノ二水ヲ領シ、次テ權現堂坂ノ山脈ト北境脈ヨリ支出スル岐脈トノ間ニ入り、曲折屈勾シ一、戸川ヲ容レ、川井村ニ至テ、只見川ニ相會シテ阿賀河トナリ、更ニ彎曲シテ與川左朝ヲ受ケ、鳥井峠ノ北ニ於テ山凹ニ入り、本州ヲ去テ越後ヲ貫キ、松ヶ崎ニ至テ北

海ニ注シ、水路州界ニ至ル長凡二十里濶一丁五十間、
越後津川ニト云カ下流

日橋川ノ左朝流

日橋川ハ、國ノ北境ニ偏スルヲ以テ、左岸ノ地ハ曠大ニ
シテ、左朝流ハ皆長シ、左ニ其著名ナル者ヲ掲ク
第一 湯川ハ、源ヲ布引山ニ發シ、北流シテ湯本村ヲ過
シ、温泉アリ古來東山天寧寺温泉ノ名世ニ著ハル、山ヲ
負ヒ水ニ枕ミ頗ル景趣アリ、山若松城ヲ距ル僅數丁、俯
シテ城中ヲ瞰ルヘシ、戊辰ノ役、官軍天寧寺山ヲ取リ、砲
ヲ列シ榴彈ヲ連射ス、城中之カ爲メニ辟易スト云フ、次
テ若松市街ノ東南ニ至リ、彎曲シテ西北ニ向ヒ若松市
街ヲ貫ク

湯本村

天寧寺山ノ址

若松ハ、保科氏ノ舊城市ニシテ、東南ハ鳥帽子・背茨等ノ
山脈ヲ受ケ、東ニ瀧澤峠ヲ負ヒ、西北平野ニ臨ミ、日橋川
大川ノ流ヲ帶フ、城市井整、人煙稠密ナリ、戊辰ノ役、官軍
四境ニ臨ミ、市街兵燹ニ罹リテ復、往日ノ觀ニ非ス、然レ
モ、戶口ノ多キ猶國中ニ冠タリ、戶數四千五百二十四、人
口二萬零五百八十八、治安裁判所・警察署・郡役所^{津北會}・病
院・國立銀行^{第三}等アリ、城ハ至徳元年、輩名直盛ノ創メ
テ築ク所ニシテ、鶴城或ハ黒川城ト稱ス、其子孫世々本
城ニ據リ、一方ニ雄視スルヲ二百年、義廣ニ至リ、天正十
七年、伊達政宗ニ攻メテ、上原ノ一戦ニ敗レ、義廣遂
ニ城ヲ棄テ常陸ニ奔ル、政宗乃米澤ヨリ徙リ居ル、明年、
秀吉東征陸奥、^{陸奥}城岩代及三^郡ヲ徇ヒ、政宗ヲ舊邑米澤ニ

移シ會津仙道十一郡ヲ削テ之ヲ蒲生氏郷ニ賜ヒ陸奥
出羽ノ守護トシ本城ニ居ラシム氏郷城ヲ増築シ更テ
若松ト名ツク慶長二年秀吉氏郷ノ子秀行ヲ宇都宮ニ
移シ上杉景勝ヲ封ス六年關原ノ役終リ家康景勝ノ封
ヲ削テ米澤ニ移シ再蒲生氏ヲ封ス嗣無クシテ封除シ
加藤嘉明之ニ代ル子明成ニ至テ國除シ正保元年保科
正之ヲ封ス子孫世々之ニ治シ以テ明治維新ニ至ル維
新ノ役ニ松平容保官軍ニ抗ス官軍兵ヲ分ツテ諸道ヨ
リ進ミ城ニ薄ル容保遂ニ城ヲ輸シ罪ニ伏ス是ニ於テ
民政取締所ヲ置ク明年若松藩ヲ置キ酒井忠實ヲ封ス
四年藩ヲ廢シ若松縣ヲ置ク九年之ヲ福島縣ニ併シ支
廳ヲ置ク後郡制定マレ之ヲ廢ス

湯川若松ヲ過クル後新屋敷村ニ至リ縣道後新松若松ニ
路スルヲ横截ス橋アリ湯川橋長三十二間ト云フ木橋ナリ
次テ北ニ向ヒ沃野ヲ灌溉シ三川村ニ至テ日橋川ニ合
ス水路約十里十三丁

第二 大川ハ上流ヲ荒海川ト云フ荒海山又荒貝山ニ
濫觴スルヲ以テナリ最初東北ニ向テ流レ數多ノ溪水
ヲ受ク其一水山王峠ヲ開ク下野ニ通スル縣道ナリ流
水此道ニ沿ヒ糸澤村ヲ過ク山間ノ僻村ナリ次テ中荒
井村ヲ過ク館址アリ一小谷ノ門口ヲ占ム長沼三郎左
衛門常則築キ居リ慶長年中渡邊左京助住スト云フ次
テ山凹ヲ出テ田島村人口約一千三百ニ至テ檜澤川左朝ヲ受
ク此川保城峠ヨリ發シ伊南河谷ニ往來スル通路ヲ開

中荒井村

田島

鳴山城

ク、田島ハ山間ノ驛市ニシテ、郡役所津南郡アリ、村南山麓ニ古城址アリ、鳴山城ト號ス、土境空隍ノ形猶存セリ、東北ノ方ハ地形漸ク卑ク、民家ニ連リ、西南ハ峻岩ニ據リ要害トス、鎌倉府ノ時、結城ノ一族長沼悪五郎家政此地ニ來リ住シ、子孫世々此城ニ居リ、天正中、葦名氏滅亡ノ後、伊達氏ニ降ル、蒲生氏ノ時、小國但馬ヲ置ク、又村ノ東四丁ニ館址アリ、土人折橋館ト云フ、土境空隍ノ形存ス、相傳フ長沼氏ノ臣折橋某ノ居館ナリト、次テ水無川右朝流ヲ受ク、此川男鹿嶽ヨリ發シ、大萱峠ヨリ來ル一水ヲ併ス、其下流ハ夏秋ノ際伏流シテ水無シ故ニ名ツク、次テ加藤川右朝流ヲ受ク、此溪水源ヲ下野磐城・本州三國ノ交界點ナル大山彙ニ發シ、西北ニ流ル、ナリ、次テ豐成

豐成村

月石川

彌五島村

村ヲ過ク、下野街道ノ驛次ナリ、古名ヲ楢原トス、村ノ西北ニ館址アリ、天正年中、長沼氏ノ臣星玄蕃之ニ住スト云フ、次テ月石川左朝流ヲ受ク、此川舟鼻山ヨリ發シ、西ヨリ東ニ流ル、ナリ、次テ彌五島村ヲ過ク、館址アリ、字和田ノ西山上ニ在リ、草岡館ト名ツク、中丸新九郎ナル者築キ、天正ノ頃、木村數馬之ニ居ル、南・嶋巖ニ連ル、楡山ト云フ、頂ニ達スル二丁、次テ鶴沼川ヲ受ク、此川源ヲ岩瀬郡羽鳥村ノ山中鶴沼ニ發シ、白川布引山ノ東北麓ヲ繞リテ西流シ、左右ノ諸山ヨリ出ツル數多ノ溪水ヲ集メ、南會津郡ニ入テ高崎村ニ至リ、水路約四里十七丁ニシテ相會スルナリ、此流ヲ沂リ白河ニ達スル通路アリ、葦野原口ト稱ス、往時ハ柵門ヲ設ケ、若松ヨリ戍兵ヲ置テ

葦野原口

三寄村

御山村

本郷村

出入ヲ監察セシム、二水合シテ愈大河トナリ、大戸山ノ西麓ヲ過ク、道路其山脚ヲ踰フ、之ヲ船子峠ト名ツク、次テ關川右朝ヲ受ク、此川大戸山ヨリ發シ、西北ニ向テ流レ、水路約四里ニシテ三寄村ニ至リ相會ス、其近傍香鹽ト云フ地ニ館址アリ、西ハ流ニ臨ミ北ハ深谷ヲ控ヒ、東ヨリ南ハ土壁空隘ヲ廻ラス、穴澤越後等居リシ處ト云フ、次テ御山村ノ西ヲ過ク、村ノ東南五丁餘、御館山ニ壘址アリ、相傳フ源義家東征ノ時此地ニ築クト、對岸ニ本郷村千七百約一アリ、下野街道ノ驛市ナリ、村ニ向羽黒山城址アリ、永祿四年、葦名盛氏ノ築ク所トス、下野街道築富村ヨリ此地ニ至ルマテハ小山脈ヲ隔テ、流ニ平行ス、途中大内村關山今水玉村アリ、戊辰ノ役ニ、官軍ノ山

飯寺村

湯川

高久村

王峠ヨリスル者、大内關山ヲ抜キ、長驅シテ飯寺村ニ至ル、賊ノ糧道復絶フト即是ナリ、次テ飯寺村ニ至リ、下野街道ヲ横截ス、橋橋名アリ、木橋長三十四間ナリ、村ノ西北二丁ニ館址アリ、葦名直盛ノ住セシ處ナリ、是ヨリ下流ハ湯川ニ平行シテ北流シ、河床増濶、砂礫堆積シテ波狀ヲ爲シ、河水其間ヲ委迤回流ス、右岸湯川トノ間ニ神指原一作香指アリ、縣道ノ通過スル處ナリ、慶長五年、直江兼續石田三成ト謀リ、景勝ヲ勸メ兵ヲ擧ケ、香指原ニ城クト即是ナリ、規模廣大、數十萬ノ役夫ヲ使用シ成ルコト垂ントシ、家康ノ東伐ニ際シ、遂ニ其功ヲ果サスト云フ、今ハ田圃トナレヒ壘跡猶存スルモノアリ、次テ高久村ヲ過ク、縣道ノ驛市ナリ、橋アリ、大川橋長五十八間一尺ト云

フ、圮橋ナリ、次テ立川村ニ至リ日橋川ニ合ス、水路約二十三里

第三 宮川ハ、一ニ鶴沼川ト云フ、往時ハ鶴沼川之ニ會セシガ、天文五年ノ洪水ニ沿流直北ニ決シ、今ノ大川トナリ、其舊道田圃トナル、然レ土俗猶古名ヲ存スト云フ、源ヲ博士山ノ南溪ニ發シ、北流シテ高田村千八二口約ニテ過ク、若松ヲ距ル西南三里弱ニアリ、稍繁邑ナリ、郡役所大沼アリ、次テ大川ニ平行シ、河沼郡ニ入り坂下町約八三口七テ過ク、縣道ノ驛市ナリ、若松高田ト鼎足ノ狀ヲナシ、人烟稠密ニシテ、郡役所河沼アリ、橋アリ鶴沼橋十五二間幅ト云フ、板橋ナリ、次テ青津村ニ至リ日橋川ニ入ル、水路約十里十二丁

高田村

坂下町

日橋川ノ右潮流

右潮流皆長カラス、左ニ之ヲ揭示ス
第一 大谷川ハ、源ヲ磐梯山ノ西南溪ニ發シ、西流シテ唐上原ヲ通流シ、日橋川ニ平行シテ大谷村ヲ過ク、右岸下西連村ノ西八丁餘ニ地理山館址アリ、天正年中、伊達政宗ノ築ク所ト云フ、内外ノ隍形今猶存ス、其下字、落合ニ至テ日橋川ニ會ス
第二 大鹽川ハ、源ヲ高曾根山ニ發シ、關峠ノ山路ヲ開ク、若松ヨリ羽前米澤ニ通スル縣道ノ由ル處ナリ、初山間ヲ南流シ、次テ折レテ西ニ向ヒ大鹽村ヲ過ク、山上ニ柏木城址アリ、今ハ田圃トナリ、僅ニ壘隍ノ遺形ヲ存スルノミ、天正十二年、葦名義廣之ヲ築ギ、三瓶大藏ヲ置テ

下西連村

天正

柏木城址

田山村

檜原村ノ連絡ヲ保テ伊達氏ヲ防ニ供スト云フ、次テ北山村ヲ過ク、村ノ山上ニ綱取城址アリ、麓ヨリ登ルト五十間、對岸ノ諸村ヲ瞰制スヘシ、河流其麓ヲ流レテ東ヨリ南ニ繞ル、永正ノ頃、葦名氏ノ臣・松本勘解由之ニ居ル、次テ西南ニ流レ、小府根村ニ至テ姥堂川ヲ受ケ、此川亦源ヲ高曾根山ニ發シ、其方向西南ニ流レ、源・太屋敷村ノ東ヲ過ク、村ニ館址アリ、鑑城ト號ス、至徳中葦名直盛ノ臣、平田大隅ノ築シ所ナリト云フ、今ハ土壇ノ遺跡僅ニ存スルノミ、其他館址數多アリ、皆平田氏ノ家士ノ住セシ地ニシテ、今ハ悉シ菜園トナル、二水合スル後、鹽川村ニ至リ日橋川ニ注ク、水路約六里

第三 田付川ハ、一ニ櫛川ト云フ、亦源ヲ高曾根山ノ西

入田村

入田村

入田村

溪ニ發シ、大峠ノ山徑ヲ開ク、羽前ニ通スル里道ナリ、天正十三年、葦名氏ノ臣、松永備中伊達氏ニ内應シテ、入田付村ノ山道ヲ開キ、其軍ヲ誘フト即此道ナリ、南流シテ入田付村ヲ過ク、幽僻ノ寒村ナリト雖、山中徑路ノ相會スル小要地ナリ、館址アリ佐瀬大和種常ノ居館ナリ、次テ尙暫ラク山間ヲ流ル、相傳フ天正中、伊達政宗此邊ノ山中ニ篝火ヲ置テ鹽川村ト號信ヲ通シ、以テ黒川若今松ノノ變ヲ窺ハシメタリト云フ、次テ平地ニ出テ喜多今松ノ方町若今松ノ五ノ口約若今松ノヲ過ク、北境ノ繁邑ナリ、人煙稠密、郡役所郡麻アアリ、此方面故總テ北方ト稱ス、四圍平坦、水路縱橫、田土ヲ灌沃シ、村落密布セリ、次テ太田村ニ至リ、押切川ヲ受ク、此川源ヲ飯盛山ニ發シ、南流シテ上三宮村ヲ過ク、古城

新宮村
新宮城址

址アリ青山城ト云フ、佐原氏ノ舊墟ナリ、次テ濁川ヲ併
シ新宮村ヲ過ク、館址アリ新宮城又大城ト稱ス、新宮氏
世々之ニ居リ耶麻半郡ヲ領ス、應永中、黒川城主韋名氏
來リ攻メ、城陷キリ、遂ニ廢城トナル、次テ日橋川ニ入ル、
水路約六里十二丁
第四 一、戸川ハ、源ヲ箸王子山ノ東ニ發シ、南流シテ鳥
屋森ノ東麓ヲ繞リ、山都村ニ至リ、日橋川ニ入ル、水路約
六里十五丁
第五 笹川ハ、源ヲ大綱木村ノ山中ニ發シ、西流シテ豐
洲村ニ至リ、阿賀河ニ入ル、水路約三里
第六 奥川ハ、源ヲ箸王子山ノ西ニ發シ、西南ニ流レ、元
島村ニ至リ、阿賀河ニ注ク、水路約六里十八丁

小瀬沼

其二 只見川ノ水路

只見川ハ、源ヲ赤安山ニ發ス、之ヲ大江澤ト名ツク、溪水
ナリ、初、西北ニ向ツテ山間ヲ下リ、次テ西南ニ彎流シ、小
瀬沼ニ入ル、小瀬沼ハ、上野ニ跨ル、海面ヲ抜ク五千尺ノ
高處ニアリ、東西二十七丁、南北十六丁、四方峻山ヲ擁シ、
小高原ヲ爲ス、之ヲ小瀬平ト稱ス、一山徑ヲ通ス、之ヲ小
瀬峠ト名ツク、村落無ク、實ニ無人ノ郷ナリ、唯湖ノ東畔
ニ草舎二軒ヲ設ケ、行路ノ休憩所ニ供スルノミ、然レ、道
路甚シク險ナラスト云フ、湖ヲ出ルコト及ンテ、只見川ト
稱シ、燈ノ嶽ノ西麓ヲ繞リ、最初暫ク越後ノ國境ヲ劃シ
テ北流シ、大鳥嶽ヨリ發スル大鳥澤左朝ヲ受クルコト及
ンテ、越後境ヲ去リ、國內ニ入テ、仍北流シ、左右ノ山脈ヨ

只見村

大鹽村
中山城址

空田村

出ル數多ノ溪流ヲ集メテ急、大河トナリ、朝草嶽ノ麓
 至テ方向ヲ東ニ轉シ、石伏村ニ至テ石伏川右朝ヲ容
 レ、黒澤村ニ至テ伊南川右朝ヲ領シ、河身順ニ肥ヘ只見
 村ヲ過シ、津波ナリ只見渡水幅四ト云フ、暫ラシ北流シ、
 叶津村ニ至テ叶津川左朝ヲ合シ、復東ニ向ヒ蒲生村ニ
 至テ蒲生川左朝ヲ納レ、委迤曲行シテ大沼郡ニ來リ大
 鹽村ヲ過シ、村ノ山上ニ館址アリ、中山城ト唱フ、天正十
 八年、伊達政宗横田ヲ攻メ時、山内氏勝ノ猶子左馬助ト
 云フ者此城ニ據ル、次ヲ横田村ヲ過シ、古城址アリ村ノ
 東南二丁鷹巢山ノ頂ニ在リ、東南高山ニ連リ西北山入
 川右朝ヲ帶フ、首藤刑部丞俊通ノ子經俊、源頼朝ニ從ヒ
 泰衡ヲ伐テ功ヲ以テ會津郡南北、大沼郡金山谷ノ地ヲ

山内伊達
兩氏ノ古
川口村

沼澤沼

賜フ、子孫山内ト稱シ世々此城ニ住ス、氏勝ニ至リ輩名
 氏ニ屬ス、天正十七年、伊達政宗本州ニ侵入シ、輩名氏ヲ
 滅シ黒川城ヲ取テ之ニ移ル、氏勝ヲ招シ氏勝本城ニ據
 リ從ハス政宗其將大波玄春ヲ遣リ本城ヲ攻メシム、氏
 勝兵疲レ食盡キ遂ニ城ヲ出テ大鹽城ニ退キ、渡舟ヲ引
 キ水ヲ隔テ相持ス、既ニシテ秀吉東征シ本州ヲ蒲生氏
 ニ賜リ、氏勝領地ヲ失ヒ廢城トナル、又村ノ西六丁許ニ
 方三四丁ノ平原アリ、山内氏伊達氏ノ兵ト戰ヒシ古戰
 場ナリ、次テ川口村ニ至テ野尻川右朝ヲ受ク、村ノ西山
 上ニ館址アリ玉繩城ト名ク、山内氏ノ支族河口某之
 ニ住ス、天正中、伊達政宗ニ降ル、次テ北ニ向テ彎曲シ南
 ニ沼澤沼ヲ擁ス、此沼東西十四丁、南北十九丁、丘陵圍繞

風景幽邃ナリ、次テ東北ニ向ヒ河沼郡ニ入り、郷戸村
 ニ至テ澗谷川右朝ヲ併セ、仍同方向ヲ逐ヒ柳津村ヲ過
 シ、津波アリ、只見波十六幅ト云フ、此邊河岸危巖大石多
 シ、次テ片門村ニ至リ、縣道若松ニ從スリ、越後縣ヲ橫截ス、驛
 次ナリ、橋アリ、片門船橋幅一六四尺ト云フ、船橋ナリ、往
 時ハ船渡ナリ、故ニ對岸ヲ猶船渡ト云フ、戊辰ノ役ニ、津
 川口ノ會兵若松ノ急ヲ聞キ、津川ノ營ヲ火キ退テ船戶
 ヲ守リ、川ヲ阻テ相持スト、即此地ナリ、次テ西須賀村ヲ
 過ク、又船橋アリ、西須賀船橋幅一五四尺ト云フ、次テ川
 井村ニ至リ、日橋川ニ會シ、阿賀河トナル、小瀬沼ヨリ此
 ニ至ル水路約三十五里

只見川ノ左朝流

只見川ハ國ノ西境ニ偏シ、越後境ノ山脈ニ接近セルヲ
 以テ、左朝流ハ皆甚短ク、所謂發流ニ過キス、左ニ其稍大
 ナルモノ一二ヲ掲ク
 第一 叶津川ハ、源ヲ神樂山ニ越後境ニ在リ發シテ山間ヲ南
 流シ、國境ノ山脈ヨリ出ツル數多ノ發流ヲ集ム、其一水
 八十里越ノ山徑ヲ開ク、次テ折レテ東ニ向ヒ叶津村ニ
 至テ只見川ニ入ル、水路約六里十八丁
 第二 蒲生川ハ、源ニアリ、一ハ赤柴山ニ越後境ニ在リ發シテ
 南流シ、一ハ狸森山越後境ニ在リニ發シテ南ニ會テ、大ニ發シテ西南
 ニ流レ、二水合スルニ及ンテ東南ニ向ヒ、蒲生村ニ至テ
 只見川ニ入ル、水路約六里

只見川ノ右朝流

右岸ノ地ハ頗ル曠濶ナルヲ以テ、右朝流ハ皆甚長シ、左ニ其諸川ヲ舉ク

第一 石伏川ハ、源ヲ三岩嶽ニ發シ、只見川ニ平行シテ山間ヲ北流シ、石伏村ニ至テ只見川ニ入ル、水路約九里二十丁

第二 伊南川ハ、源ヲ荒貝山下野嶽ニ發シテ西北ニ流レ、國境ノ山脈ヨリ發スル諸水ヲ集メ、落合村ニ至テ檜枝岐川ヲ合ス、檜枝岐川ハ、赤安山・懸嶽等ヨリ出ツル諸水ヨリ成リ、小瀬峠ノ山徑ヲ開ク、上野ニ通スル捷路ナリ、西北ニ流レ檜枝岐村ヲ過ク、本州西南最僻陸ニシテ人烟ノ盡クル處トス、四面峻嶽重疊、地勢深遠別境ニ入ルカ如シ、伊南川・檜枝岐川相會スル後、古町村ヲ過ク、此

古町村

檜枝岐

懸嶽

青柳村

岩俣古蹟

河谷ノ小中心ナリ、館址アリ河原田氏ノ古墟ナリ、結城朝光ノ玄孫・下野河原田郷ヨリ移リ、河原田ト稱シ伊南ノ地ヲ領シ、世々之ニ居リ、後、葦名氏ニ從屬ス、其十一世盛次ニ至リ、天正十七年、伊達政宗葦名氏ヲ滅シ黒川城ヲ取ル、盛次青柳村ニ城郭ヲ構ヘテ伊達氏ノ軍ヲ拒キ、敵退テ再ニ還住ス、因テ今ノ名ニ改ムト云フ、次テ青柳村ヲ過ク、古城址アリ久川城ト云フ、村南四丁ニ在リ、東西北三面乾隍ヲ廻シ、北ヲ本丸トシ二三ノ丸其南ニ連ル、外隍ノ形今猶存ス、河原田盛次新ニ此城ヲ築キ、伊達氏ノ軍ヲ拒ク、蒲生氏ニ至リ支族蒲生忠右衛門ヲ置クト云フ、次テ山口村ヲ過ク、村南六丁ニ答崎ト云フ處アリ、天正十七年、長沼盛秀河原田盛次ヲ撃ツテ敗走セシ古

梁取村

戰場ナリ、次テ梁取村ヲ過ク、館址アリ、村東八丁小山ノ頂ニ在リ、天正十七年、伊藤氏ノ臣・原田左馬助攻メテ之ヲ取ル、次テ折レテ西ニ轉シ、又漸ク北ニ向ヒ、遂ニ黒澤村ニ至リ、只見川ニ會ス、水路約十六里、濶六十間

第三 山入川ハ、源ヲ松坂峠ニ發シテ北流シ、布澤村津會郡ニ通スル山徑ヲ開ク、天正十七年、伊藤氏ノ將・大波玄著横田城ヲ攻ムルニ方リ、長沼盛秀田島ヨリ梁取ノ館ヲ攻メテ取ル、横田城主山内氏勝之ヲ聞キ、自カラ兵ヲ率テ梁取ヲ復サントシ、布澤ニ向ヒ此峠ニ於テ伏ニ陥リ大敗スト云フ、横田村ニ至リ、只見川ニ入ル、水路約三里

第四 野尻川ハ、源ヲ船鼻山大沼會津ニ發シ、北流シテ

松坂峠

野澤村

川口村ニ至リ、只見川ニ注ク、水路約八里二十七丁

第五 澗谷川ハ、源ヲ小野川村見澤山ニ發シ、博士山ノ西麓ヲ北流シ、郷戸村ニ至リ、只見川ニ會ス、水路約七里

阿賀河ノ最後ノ左朝流ヲ長谷川トス、源ヲ高陽山越後ニ發シ、初、東流シ、次テ北ニ向ヒ衆多ノ溪流ヲ集ム、其一水・東松峠ニ發シ、縣道ヲ開ク、次テ野澤村人口約一千四百ニ過ク、縣道ノ驛次ナリ、登世島村ニ至リ、阿賀河ニ入ル、水路約六里

交通路

國道 號六

陸羽街道 國城田郡白河郡 越後 縣 驛ニ吹 達 驛 ス 日

線路

日本

日本

日本

四十

赤津 二十一丁
 勢至堂 十一里四丁
 六 牧内 十一里八丁
 里三十丁十四間二尺

郡山 守山道 村安郡守郡山
 郡山 三春道 村安郡三春郡山

郡山 五里三十八間丁
 三春

瀬上 丁二里二十四間
 松房合七里二十六丁四十七間

米澤道 郡島板谷山形縣羽路國

三代 十二里四十三尺三
 長沼 丁一里五十二
 白河 合十七

福島 九里五十三尺三丁
 山形縣界合五里十二丁九間二尺
 米澤通山形道 郡島板谷山形縣羽路國

若松 三里五尺九丁十
 大鹽 十二里五十六尺六丁
 合十一里二丁

保原 丁四里二十二間三
 日光街道 谷郡松川
 水玉 十三里四間一丁
 田島 十一里一丁
 川島 四一丁

糸澤丁五里十二里木縣界合十六里三十三丁五十六間

里道

野澤十二里四里三丁五尺越後津川道瀨河原郡野澤取津二里越後津川道

尺三越後瀨取合四里十六丁十間寶川三三十五間

福島十二里三丁三尺上島渡四里六丁土湯六二里四二

八里橫向三十三里七尺六丁殿川野十二里三間三猪苗代十一里五丁二

六三十四里土田丁八里四十三里大寺丁四里三十三里若松合十八

里十六丁四十二間三尺

上野道南會郡津郡田島津上野

田島二里九里八間丁黑澤丁五里十三里八間五入小屋十二里八間六三丁四

小鹽五里三十八間丁小立岩丁四里三十三間三槍枝岐丁八里十五

同七上野兵倉合二十二里二十七丁四十四間三尺

下野別路三若松小下野國那須郡

若松丁一里三十三間三下野別路三若松小下野國那須郡

小鹽二里五十三間三桑原丁二里三十三間三彌五島一丁里

松川八里二丁里野際三里下野三斗小屋合十五里十五丁七

間三尺越後別路八十里越後河國郡坂下郡平越

坂下十三里四里七尺二柳津四里九三三三三尺丁瀧谷四里二二

同八坂下十三里四里七尺二柳津四里九三三三三尺丁瀧谷四里二二

本名十二里八間九丁同九尺二横田六里三二尺丁瀧澤丁四里三十二間一

鹽澤 四里四十四丁 叶津 七里四十九尺三 越後 吉平合二

十九里十六丁四十二間三尺 磐城 別路 具伊 郡建 郡前 田 川 邊 路 城 伊

梁川 十二間三丁五 五十澤 十二里三十三尺丁 磐城 前田 合三

里十七丁十三間 磐城 別路 玉野 通 五 福 島 村 邊 路 城 伊

福島 三十六間三丁尺三 渡利 十一里三十三尺丁 大波 丁 五 十 間

掛田 四里五間丁 石田 十二里四十三尺三 磐城 玉野 合七

里二十一丁五間三尺 磐城 別路 川 俣 通 城 借 夫 郡 行 方 郡 利 二 村 橋 村

渡利 丁 三 里 十 二 間 一 秋山 十一里丁二 川俣 三 里 九 四 間 丁 磐城

沿革零史

二枚橋合七里十五丁四十九間三尺

岩代國ハ、本陸奥ニ屬シ、養老中之ヲ割テ磐背國ヲ置キ、
後又併セテ陸奥ニ入ル、明治元年十二月之ヲ分ツテ五
國トス、本州其一タリ、文治五年、源賴朝泰衡ヲ誅シ、奥羽
ノ地ヲ分ツテ諸將ヲ封シ、佐原義連ニ會津四郡ヲ賜フ、
義連ノ孫光盛葦名氏ト稱シ、會津郡ニ居リ、黒川ニ城ヲ
治トス、建武中興、源顯家州守ニ任シ、鎮守府大將軍ヲ兼
テ、義長親王ヲ奉テ陸奥及出羽ヲ兼知ス、親王尋テ太
守ニ任シ、初、國府城陸前宮ニ居リ、後、靈山城伊達郡ニ移ル、
足利尊氏ノ反スル顯家西上リ、州族多ク尊氏ニ應ス、興
國元年、顯家ノ弟顯信州ノ介ニ任シ、白河城磐ニ鎮ス、四年、

尊氏畠山高國ヲ探題トシ二本松郡安達ニ居リ、鹽山諸壘
 ナ陥レ、正平中、尊氏又吉良貞家ヲ探題トシ鹽松又四本
 小安達郡ニ居リ、高國ト俱ニ州内ヲ零定シ、本州大半尊
 氏ニ歸ス、元中八年、將軍義滿本州及出羽ヲ以テ、鎌倉管
 領足利氏滿ニ隸ス、應永中、氏滿ノ子滿兼其弟滿貞ヲ本
 州ノ管領トシ、笹川郡安達ニ鎮ス、永享ノ末、滿貞上杉持
 氏ニ黨シテ敗死シ、嗣後州内統一スル所ナシ、天文中、伊
 達氏米澤郡羽前ニ據リ、兵勢益熾ナリ、將軍義晴以テ探
 題トナス、是時ニ方テ葦名今津郡黒川二本松郡安達二階
 堂若瀨郡大内小安達郡諸氏競起リ、互ニ相呑噬ス、天正ノ
 末、伊達政宗二本松・二階堂二氏ヲ平ラケ、葦名ヲ滅シ、大
 内ヲ降シ、悉ク其地ヲ有シテ黒川會津郡今ニ徙ル、十八

年、豐臣氏東征シ、政宗ノ侵畧スル所會津仙道ヲ收メテ
 蒲生氏郷ニ賜ヒ、黒川ニ治シテ改稱スト、陸奥及出羽ノ守
 護ヲラシム、後、蒲生氏ヲ宇都宮ニ徙シ、上杉景勝ヲ封ス、
 關原役後、景勝ノ封ヲ削テ米澤ニ徙シ、再、蒲生氏ヲ若松
 ニ封ス、嗣無クシテ封除シ、加藤嘉明之ニ代リ、子明成ニ
 至テ國除シ、保科正之後ニ松平ヲ封ス、其餘州内前後封
 ナ受クル者、二本松後丹松平福島後板倉重政二藩ト
 ス、明治紀元、王師北征若松藩主松平容保罪ニ伏シ、其封
 ナ收メテ斗南陸奥郡ニ徙シ、酒井忠實ヲ代封ス、丹羽・板倉
 二氏若松ニ黨スルヲ以テ其封ヲ削リ、板倉勝達ヲ重原
 三河若ニ徙シ、民政取締所ヲ置ク、尋テ藩所ヲ廢シ、若松
 二本松・福島三縣ヲ置ク、既ニシテ悉ク之ヲ廢シ、又之ヲ

合シテ福島、若松二縣ヲ置ク、明治九年、若松縣ヲ福島縣
ニ併ス、而シテ軍管ハ第二軍管仙臺鎮臺、第三師管ノ管
域ニ屬ス

兵要地誌附圖

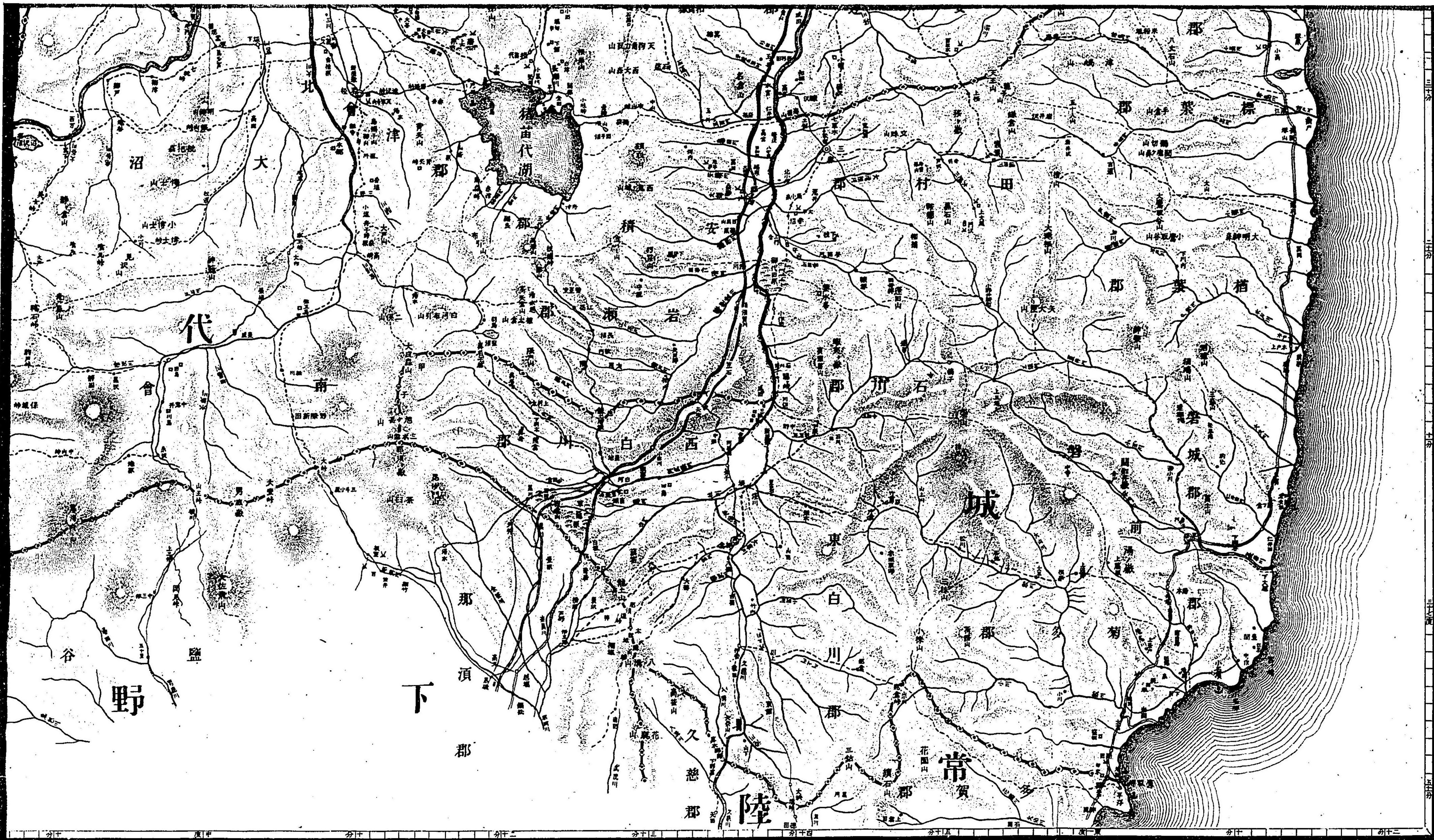
大日本磐城岩代國

四十五萬分一縮尺

陸里

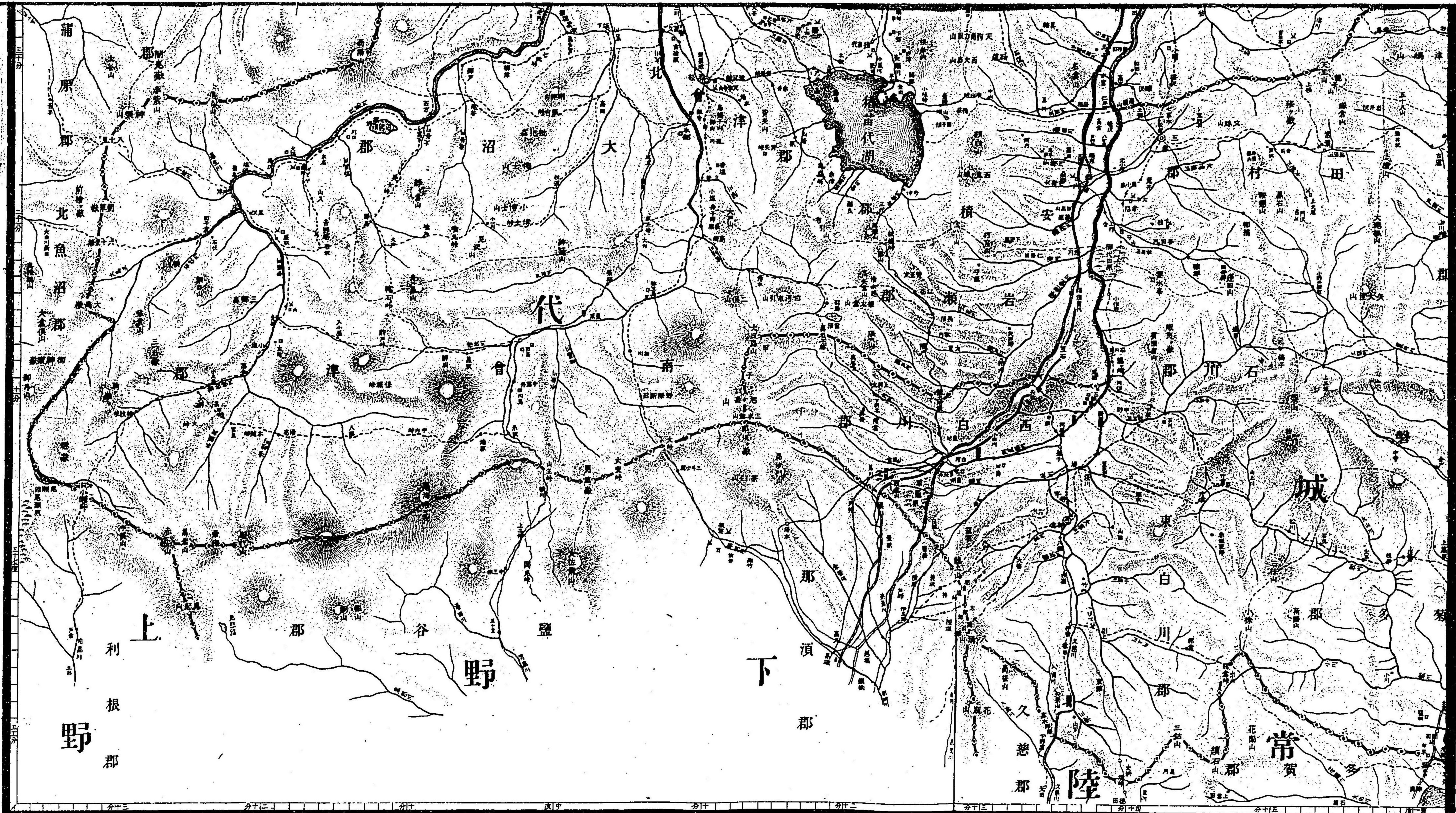


越



Vertical text on the right side of the map, likely a scale or legend, including characters such as 五、十、十五、二十、二十五、三十、三十五、四十、四十五、五十、五十五、六十、六十五、七十、七十五、八十、八十五、九十、九十五、一百.

明治二十一年二月



野

利根郡

上

郡

谷

野

鹽

下

那

須

郡

久

慈

郡

陸

常

賀

郡

城

東

白

川

郡

分十三

分十四

分十五

分十六

分十七

分三

分三

分三

分三

分三

分三

分三

分三

分三

分三

版權登錄

陸軍士官學校版權所有
明治廿一年十月二十五日印刷
（定價金貳十錢）
同 年十一月二日出版

東京橋區山下町六番地
東京府土族

發行者 宇津木信夫

同 區同 町七番地
內外兵事新聞局

印刷者 同人

東京

發行所 內外兵事新聞局

